

# 名古屋城三の丸遺跡

## 第12次発掘調査報告書

(中央新幹線「名城非常口」地点)

2017

名古屋市教育委員会





# 名古屋城三の丸遺跡

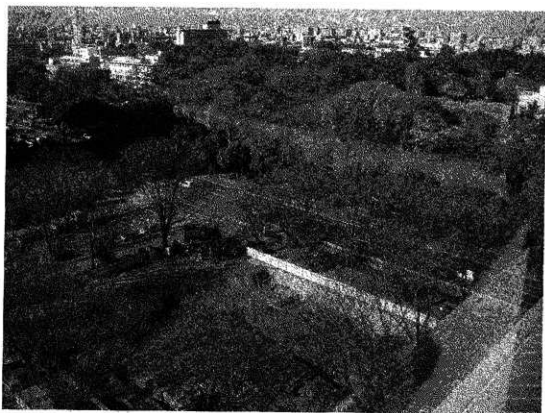
## 第12次発掘調査報告書

(中央新幹線「名城非常口」地点)

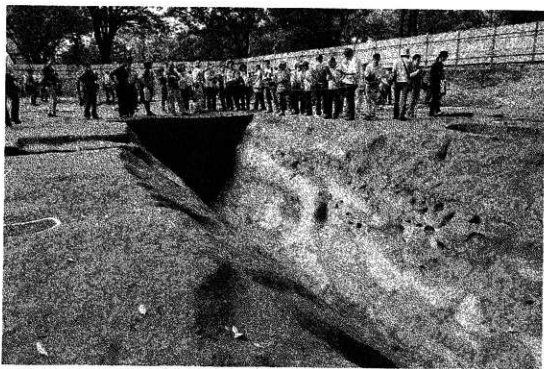
2017

名古屋市教育委員会





発掘調査地点から名古屋城天守閣を望む(南東から)



発掘調査現地説明会(東からみるSD701)



## 例 言

1. 本書は、平成27年度に名古屋市教育委員会が実施した名古屋城三の丸遺跡第12次発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、東海旅客鉄道株式会社(以下、JR東海と記す。)による中央新幹線名城非常口工事に伴い、名古屋市教育委員会が委託契約して行った。
3. 発掘調査のうち、現場作業と記録作業および出土品の水洗作業等を名古屋市教育委員会がナカシャクリエイト株式会社へ支援業務委託した。
4. 調査は、名古屋市教育委員会生涯学習部文化財保護室学芸員水野裕之が担当し、ナカシャクリエイト株式会社が、調査員の大杉規之、廣瀬正嗣のもとに現場作業および出土品水洗等の整理作業を行った。発掘調査報告書の作成は、平成28年度分のJR東海の委託費用により名古屋市教育委員会が行なった。出土品の分類、接合、実測作業等の遺物整理および報告書図版作成業務は、橋上佐知子、小浦美生、河原久美、若原義弘が行ない、執筆・編集は水野が担当した。
5. 発掘調査にあたり、JR東海をはじめ、財務省東海財務局、愛知県教育委員会、愛知県警察本部、名古屋市緑政土木局、同北土木事務所のお世話になった。また調査中も多くのの方々から多くのご教示を得た。
6. 自然科学分析は、戦国期の堀から出土した人の頭骨について、名古屋大学博物館准教授の新美倫子先生に分析、鑑定委託した。
7. 本書で使用する方位・座標は、国土座標系(世界測地系)に拠っており、水準地は東京湾平均海面(T.P)である。
8. 当調査の出土品および記録類は、名古屋市教育委員会が保管している。



## 目次

1	調査の経緯	3
2	遺跡の位置と環境	4
	(1) 地理的環境	4
	(2) 歴史的環境	4
3	調査の方法と成果	6
	(1) 調査の方法	6
	(2) 順序	6
	(3) 遺構と遺物	21
	① 近代以降の概要	21
	② 近世の概要	23
	③ 中世の概要	57
	④ 古代の概要	80
	⑤ 古代以前の概要	83
4	自然科学的分析	84
5	まとめ	86
	報告書抄録	90

## 1 調査の経過

中央新幹線「名城非常口」の建設予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地であることから、平成26年3月13日付で名古屋市教育局委員会は、埋蔵文化財の有無(残存状況)を確認するために試掘調査が必要である旨をJR東海に伝えた。そして、JR東海から平成26年4月10日付の試掘調査依頼書を受け、同年5月12日から5月23日までの間で、約2,000㎡の敷地のうち8箇所の試掘調査を行った。その結果、江戸時代の堆積土層と中世(14～16世紀)の堆積土層である遺物包含層と数期の遺構・遺物が、工事予定地のほぼ全面に渡って存在すると判断された。

これらの経緯から、名古屋市教育局委員会は、JR東海から発掘調査業務の委託を受け、約1,900㎡を対象面積とした発掘調査を平成27年4月16日から平成27年10月31日の予定で発掘調査を始めた。

また、調査が進むうち、江戸時代(上層)と戦国期以前(下層)に調査面を分けて発掘調査することが必要となり、発掘調査の作業量が増加することとなった。協議の結果、その費用負担等についてJR東海の協力を得て、更に発掘調査の工期も平成28年2月29日まで延長された。

発掘調査作業は、名古屋市教育局委員会と支援業務委託契約をした発掘調査会社(ナカシャクリエイト)の調査員、調査補助員らと名古屋市教育局委員会文化財保護学芸委員が調査を行った。江戸時代の遺構検出面は、現地表から約1m下位で検出され、ほぼ全面を一度に調査、記録をしたが、戦国期以前の遺構検出面は現地表下約160cmにあり、この面の調査は、排土現場のスペースの関係などから、西側の全体の約3分の1を先に調査し、廻め戻してから残り部分の調査を行った。出土遺物は、コンテナケースで約260箱におよび随時発掘調査会社が水洗作業と遺物の収納を行った。



図1 調査位置(○印)(5万分の1)

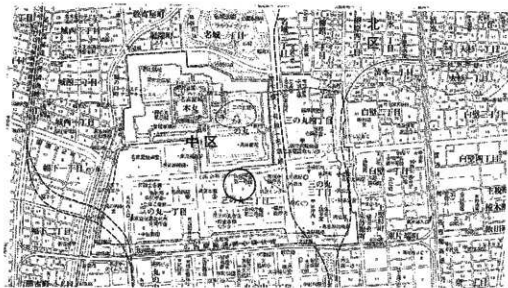


図2 調査位置(○印)(2万分の1)

## 2 遺跡の位置と環境

### (1) 地理的環境

名古屋城三の丸遺跡は、遺跡名の示すとおり江戸時代に徳川家康の命により天下普請で築城された名古屋城の三之丸の範囲を埋蔵文化財包蔵域とした遺跡である。名古屋城の立地する地形は、熱田台地と呼ばれる名古屋市の中央部を南北に細長く連なる標高12~13mの更新世台地の北西端にあたる。このため西方や北方に対しては、極めて見晴らしの良い地形に造られたことがいえる。

また、当地方は、日本列島においての東西文化の中間に位置する立地であり、おそらく陸路に加え、海路においても東西を中継する地域という当地方の特徴が、旧石器時代以降古代、中世から現代にも通じる地理的環境となっている。

### (2) 歴史的環境

当遺跡範囲では、約38万年前以降の後期旧石器時代の終末期頃にあたる細石刃核の出土もあり、古くから人が住んでいた痕跡がわずかながらみつかっている。縄文時代では、早期の上器片のほか、詳細な時期は不明であるが縄文時代とおもわれる石器もわずかに出土している。弥生時代になると中期前半、後期前半、後期後半の竪穴住居跡そして古墳時代の竪穴住居跡が当遺跡範囲の南西部(愛知県図書館地点)から多数検出され、ここではさらに弥生時代後期後半や古墳時代前期の方形周溝墓もみつかっている。

古代においては、遺構の広がりはいくつかないが遺跡南西部では、地域の公的な施設存在を想定させる小型の灰釉陶器双耳竪や円面甕が竪穴建物から出土し、緑釉陶器、緑釉紫地の四足壺といった一般の集落とはいえないような内容の出土遺物がある。

中世では、13~14世紀の遺物は希薄である。15世紀になると遺跡北西部では、一辺50mあまりの方形区画の溝で囲まれた施設がつくられ、軍事的な構造を示すようであるが、その一角には、土坑墓が複数つくられた場所が備わっていたようである(能楽堂地点、中部電力地下変電所地点)。15世紀中頃からは、今川那古野氏が黒敷を構える地となり、16世紀前半には、駿河国主今川氏親が那古野城を築き、今川氏貞を城主に置いた。この城は、別称「櫛の丸」とも呼ばれた。1538年(天文7)頃、織田信秀は那古野城を攻略し、安養寺、天主坊、若宮八幡社などが焼失したという。織田信長は、1555年(弘治元)、21歳の頃、この城から清須城へ移り、織田信光(後に林通勝)を那古野城主に置いた。そして1582年(天正10)、この頃那古野城は廃城になったとされている。

1610年(慶長15)、名古屋城の築城をはじめ、その後「清須越し」もはじまる。1663年(寛文3)には、二之丸の成瀬、竹腰の西屋敷が三之丸へ移った。

さて、現在の三の丸官庁街の中央部である当調査地点を近世名古屋城の城下絵図に合わせてみると、名古屋城二之丸の中央南側石垣の上に造られた二層の「御太鼓櫓」の位置から三之丸の中央を南へ続く「御太鼓櫓筋」の一部が調査区のほぼ中央にあたるとおもわれ、遺路を挟んだ東西では、重臣屋敷の一部を調査することが予想された。この遺路が検出されれば、西側は、17世紀後半から幕末に至るまで尾張藩の付家老であった二万石の竹腰家の屋敷地の奥にあたり、遺路の東側は、久野、横井、鈴木氏などの屋敷地であった場所であることが想定された。

また、非常に珍しいことに、発掘調査する地点の時代背景として、尾張徳川家第14代藩主慶徳の墓

末頃の名古屋城三之丸の映像(写真)が現在まで残っていたことである。その写真には、特に道路(「御太鼓橋筋」)と竹藪家の上蔵がメインに写っており、発掘調査で検出される遺構の上部の姿を(見てきたように)想像することができる。



写真1 塹壕

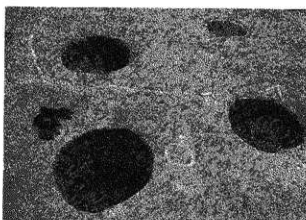


写真2 個人用掩体



写真3 防空壕

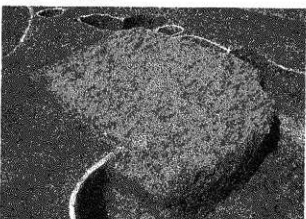


写真4 貯水槽

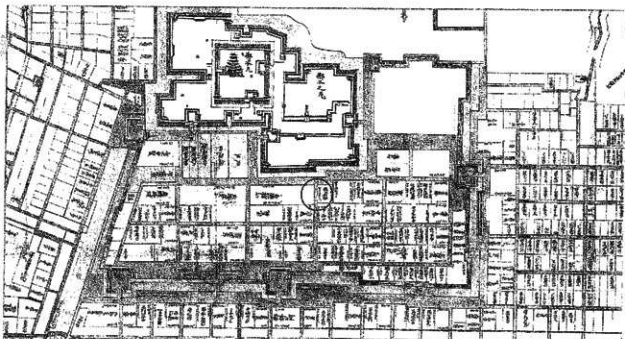


図3 城下絵図からみた調査位置(○印)

〔尾府名古屋図〕より 名古屋市蓬左文庫蔵

### 3 調査の方法と成果

#### (1) 調査の方法

発掘調査は、面積が比較的大きいため、江戸時代の整地土(黄灰白色シルトの盛土)面で検出された三之丸を南北に通る道路(御太鼓櫓筋)の東側の調査区をA区(道路部分まで含む)、西側をB区とした。調査区のほぼ全域に堆積する整地土面では、江戸時代各時期の遺構がこの盛土(20~80cmの厚みで残存する)を掘り込んで造られている。本来はさらに上位から造られた明治時代以降の遺構もこの面で検出した(防空壕、掩体など)。

地表からの土層堆積の断面図は、調査区の主に4辺を記録し、遺構埋土の断面は状況に応じて記録した。整地土の下には、戦国期以前の遺構が残っているため、両査では上層の江戸時代の整地土面を第1面とし、茶盤層(熱田層)及びこの上に堆積する暗褐色の遺物包含層(中世)での検出面を第2面とした。平面図化と記録写真用にドローンによる撮影を3回行なった。

#### (2) 層序

当地点は、都市公園内にあたり、表層上は砂質の公園整地土である。その下には、基本土層として、明治時代以降の帝國陸軍用地であった頃の砂質土層、江戸時代の整地土(盛土)、中世の包含層(暗褐色土層)、基盤層の熱田層(数千年前の水成層でシルト、砂、粘土が互層に堆積する)の順に観察できる。現地表から熱田層上面までは、1.7~1.8mである。

江戸時代の整地土(盛土)は、「三之丸」の築城時に北側に位置する堀を掘削した際の発生土(地山である熱田層で、上層は黄褐色であるが、その下は黄色系から黄灰白色、明灰色などの色調がある。)を積んでいったと考えられ、黄灰白色のシルト質土が、北側から順に盛土していったとおもわれる。

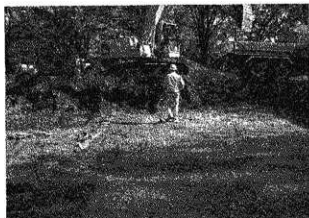


写真5 調査状況(表土除去)



写真6 調査状況(SD701)

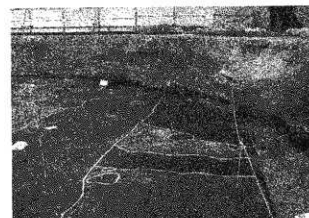
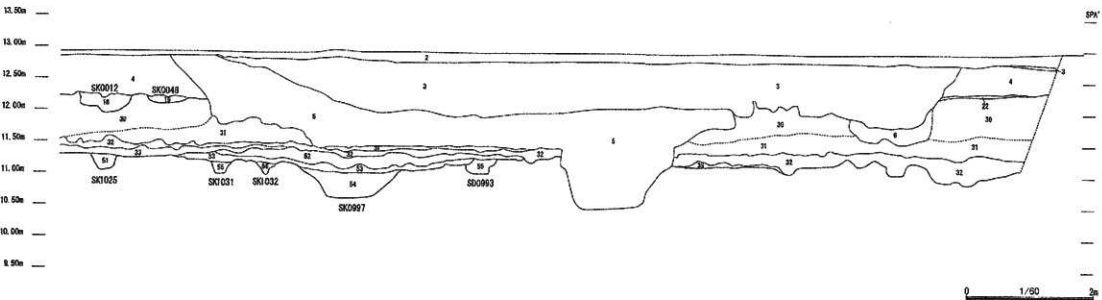
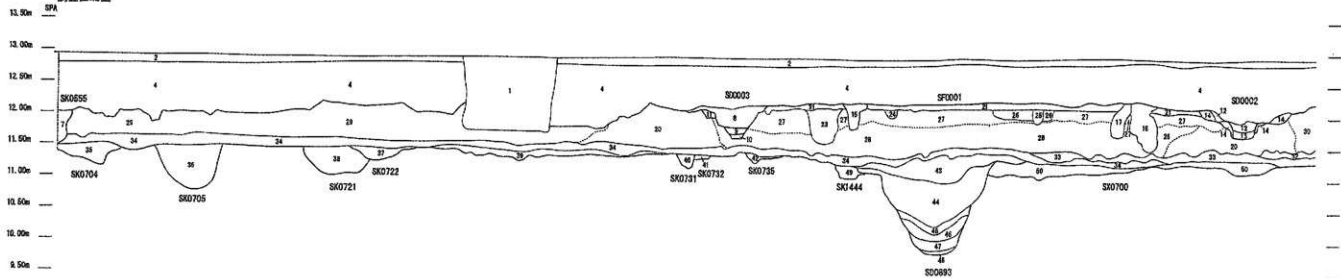


写真7 盛土層下の近世以前の遺構検出

調査区北壁

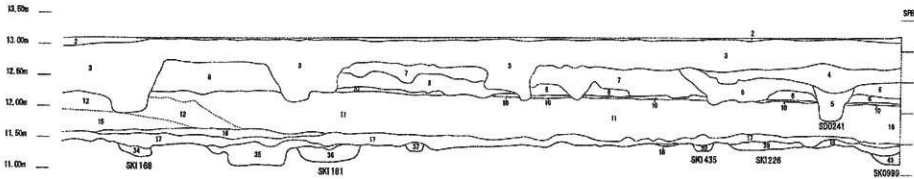
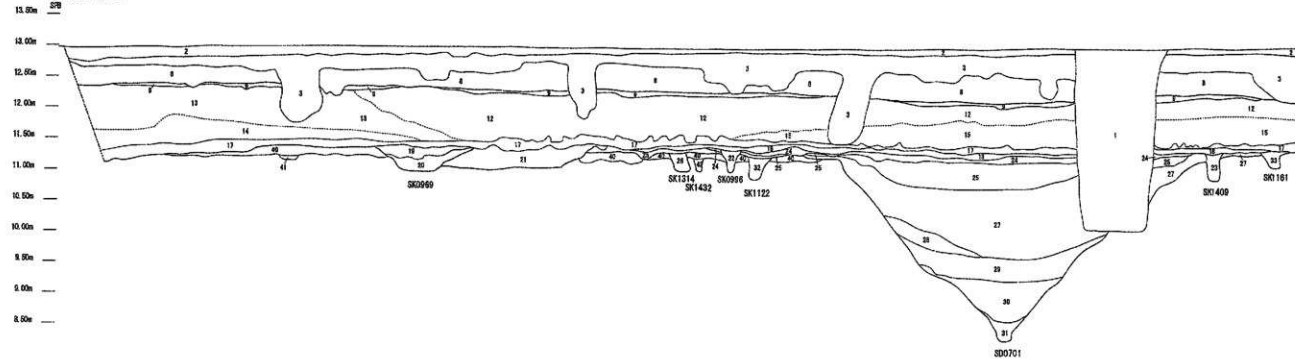


- |  |   |  |  |
|--|---|--|--|
| <p>1. 調査区北壁</p> <p>2. 1095/2 赤褐色 礫層</p> <p>3. 1092/1 黄土 礫層</p> <p>4. 1092/2 黄土 礫層</p> <p>5. 1092/3 黄土 礫層</p> <p>6. 1092/4 黄土 礫層</p> <p>7. 1092/5 黄土 礫層</p> <p>8. 1092/6 黄土 礫層</p> <p>9. 1092/7 黄土 礫層</p> <p>10. 1092/8 黄土 礫層</p> <p>11. 1092/9 黄土 礫層</p> <p>12. 1092/10 黄土 礫層</p> <p>13. 1092/11 黄土 礫層</p> <p>14. 1092/12 黄土 礫層</p> <p>15. 1092/13 黄土 礫層</p> | <p>16. 1095/1 黄土 礫層</p> <p>17. 1095/2 黄土 礫層</p> <p>18. 1095/3 黄土 礫層</p> <p>19. 1095/4 黄土 礫層</p> <p>20. 1095/5 黄土 礫層</p> <p>21. 1095/6 黄土 礫層</p> <p>22. 1095/7 黄土 礫層</p> <p>23. 1095/8 黄土 礫層</p> <p>24. 1095/9 黄土 礫層</p> <p>25. 1095/10 黄土 礫層</p> <p>26. 1095/11 黄土 礫層</p> <p>27. 1095/12 黄土 礫層</p> <p>28. 1095/13 黄土 礫層</p> <p>29. 1095/14 黄土 礫層</p> <p>30. 1095/15 黄土 礫層</p> | <p>31. 1095/16 黄土 礫層</p> <p>32. 1095/17 黄土 礫層</p> <p>33. 1095/18 黄土 礫層</p> <p>34. 1095/19 黄土 礫層</p> <p>35. 1095/20 黄土 礫層</p> <p>36. 1095/21 黄土 礫層</p> <p>37. 1095/22 黄土 礫層</p> <p>38. 1095/23 黄土 礫層</p> <p>39. 1095/24 黄土 礫層</p> <p>40. 1095/25 黄土 礫層</p> <p>41. 1095/26 黄土 礫層</p> <p>42. 1095/27 黄土 礫層</p> <p>43. 1095/28 黄土 礫層</p> <p>44. 1095/29 黄土 礫層</p> <p>45. 1095/30 黄土 礫層</p> | <p>46. 1095/31 黄土 礫層</p> <p>47. 1095/32 黄土 礫層</p> <p>48. 1095/33 黄土 礫層</p> <p>49. 1095/34 黄土 礫層</p> <p>50. 1095/35 黄土 礫層</p> <p>51. 1095/36 黄土 礫層</p> <p>52. 1095/37 黄土 礫層</p> <p>53. 1095/38 黄土 礫層</p> <p>54. 1095/39 黄土 礫層</p> <p>55. 1095/40 黄土 礫層</p> <p>56. 1095/41 黄土 礫層</p> <p>57. 1095/42 黄土 礫層</p> <p>58. 1095/43 黄土 礫層</p> <p>59. 1095/44 黄土 礫層</p> <p>60. 1095/45 黄土 礫層</p> |
|--|---|--|--|

図4 調査区北壁土層断面図 (S=1/60)



調査区東壁



- 1. 既設 埋設物
- 2. 100%の 砂礫層
- 3. 100%の 砂礫層
- 4. 100%の 砂礫層
- 5. 100%の 砂礫層
- 6. 100%の 砂礫層
- 7. 100%の 砂礫層
- 8. 100%の 砂礫層
- 9. 100%の 砂礫層
- 10. 100%の 砂礫層
- 11. 100%の 砂礫層
- 12. 100%の 砂礫層
- 13. 100%の 砂礫層
- 14. 100%の 砂礫層
- 15. 100%の 砂礫層

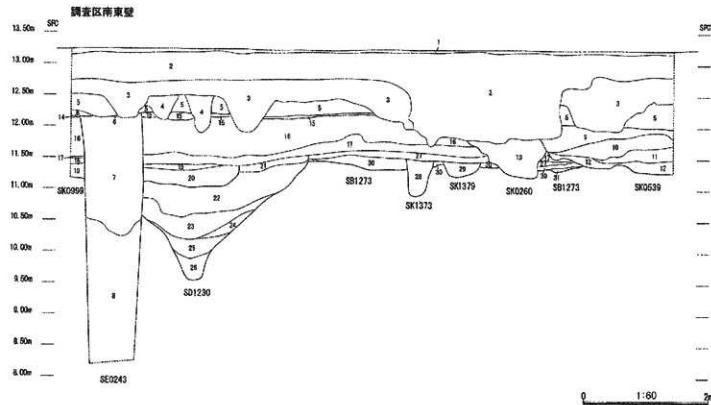
- 16. 100%の 砂礫層
- 17. 100%の 砂礫層
- 18. 100%の 砂礫層
- 19. 100%の 砂礫層
- 20. 100%の 砂礫層
- 21. 100%の 砂礫層
- 22. 100%の 砂礫層
- 23. 100%の 砂礫層
- 24. 100%の 砂礫層
- 25. 100%の 砂礫層
- 26. 100%の 砂礫層
- 27. 100%の 砂礫層
- 28. 100%の 砂礫層
- 29. 100%の 砂礫層
- 30. 100%の 砂礫層

- 31. 100%の 砂礫層
- 32. 100%の 砂礫層
- 33. 100%の 砂礫層
- 34. 100%の 砂礫層
- 35. 100%の 砂礫層
- 36. 100%の 砂礫層
- 37. 100%の 砂礫層
- 38. 100%の 砂礫層
- 39. 100%の 砂礫層
- 40. 100%の 砂礫層
- 41. 100%の 砂礫層
- 42. 100%の 砂礫層
- 43. 100%の 砂礫層
- 44. 100%の 砂礫層
- 45. 100%の 砂礫層

図5 調査区東壁土層断面図 (S=1/60)



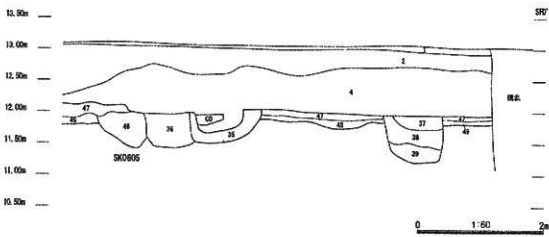
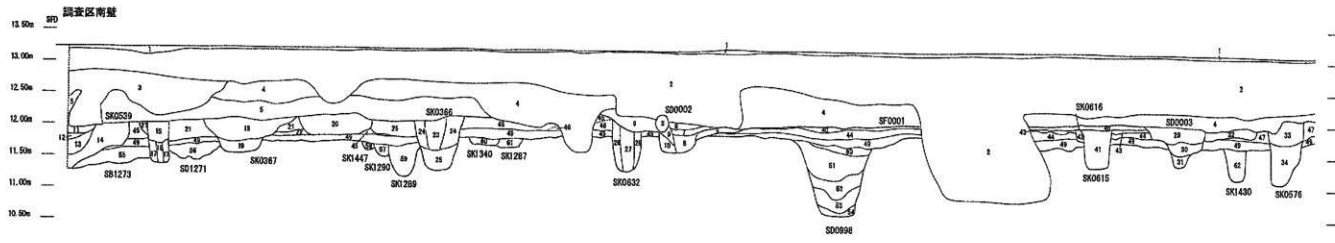




- |            |         |            |    |               |
|------------|---------|------------|----|---------------|
| 1. 100% 砂  | 細砂 (黄土) | 17. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 2. 100% 砂  | 砂       | 18. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 3. 100% 砂  | 砂       | 19. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 4. 100% 砂  | 砂       | 20. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 5. 100% 砂  | 砂       | 21. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 6. 100% 砂  | 砂       | 22. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 7. 100% 砂  | 砂       | 23. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 8. 100% 砂  | 砂       | 24. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 9. 100% 砂  | 砂       | 25. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 10. 100% 砂 | 砂       | 26. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 11. 100% 砂 | 砂       | 27. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 12. 100% 砂 | 砂       | 28. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 13. 100% 砂 | 砂       | 29. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 14. 100% 砂 | 砂       | 30. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 15. 100% 砂 | 砂       | 31. 100% 砂 | 粘土 | 細くしめる。(砂質粘土層) |
| 16. 100% 砂 | 砂       |            |    |               |

図6 駒ヶ区南東壁土層断面図 (S=1/60)

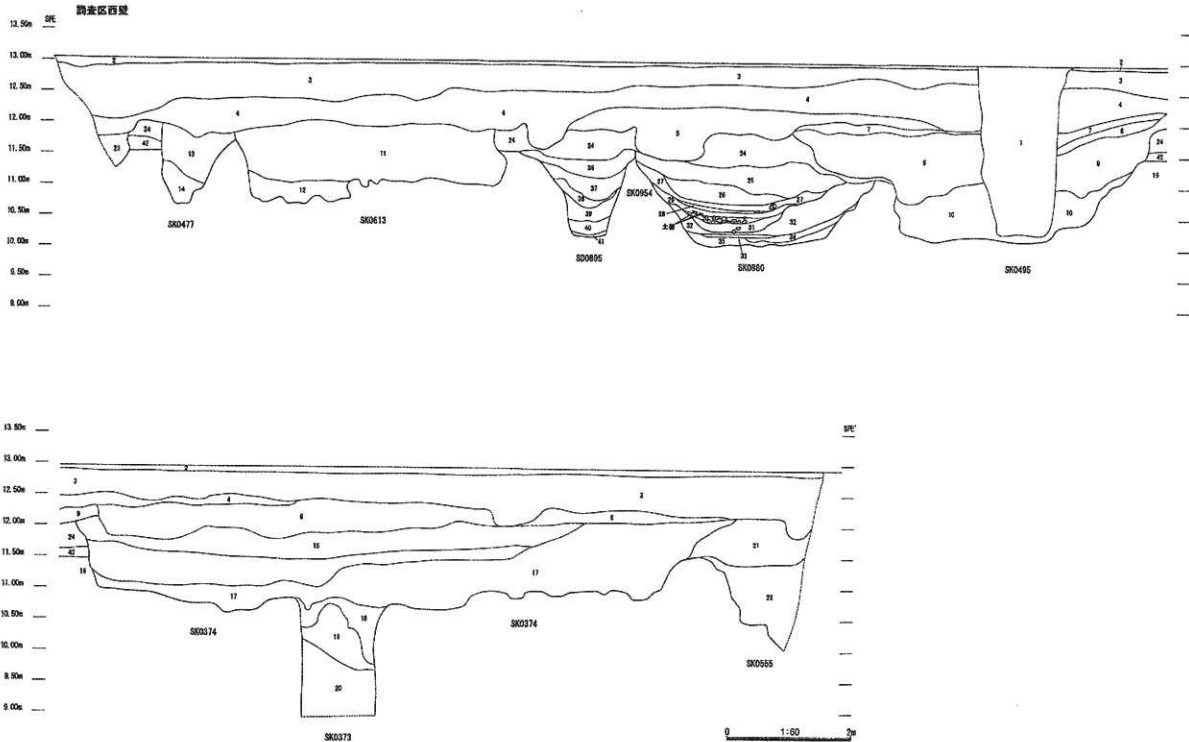




- |   |  |  |
|---|--|--|
| <p>1. 1978/1 黄褐色 腐植砂 (強土)</p> <p>2. 1978/1 黄褐色 腐植砂 赤土層多量を含む。(明礬山跡)</p> <p>3. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂中心、下部に1978/1に似た黄褐色腐植砂が埋積。(明礬山跡)</p> <p>4. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂中心、下部に1978/1に似た黄褐色腐植砂が埋積。(明礬山跡)</p> <p>5. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 赤土層多量を含む。(明礬山跡)</p> <p>6. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 1978/2の砂層に赤土層を含む。硬くしる。(SK0002)</p> <p>7. 1978/2 黄褐色 シルト 腐植砂多量を含む。硬くしる。(SK0052)</p> <p>8. 1978/2 黄褐色 赤腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0052)</p> <p>9. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0052)</p> <p>10. 1978/2 黄褐色 シルト 腐植砂多量を含む。(SK0052)</p> <p>11. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0052)</p> <p>12. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0052)</p> <p>13. 1978/2 に近い黄褐色 シルト 1978/2の砂層に赤土層多量を含む。(SK0330)</p> <p>14. 1978/2 に近い黄褐色 シルト 1978/2の砂層に赤土層多量を含む。(SK0330)</p> <p>15. 1978/2 に近い黄褐色 シルト 1978/2の砂層に赤土層多量を含む。(SK0330)</p> <p>16. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>17. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>18. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>19. 1978/2 に近い黄褐色 シルト 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>20. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> | <p>21. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 1978/2の砂層に赤土層多量を含む。(SK0330)</p> <p>22. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>23. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>24. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>25. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>26. 1978/2 黄褐色 シルト 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>27. 1978/2 黄褐色 シルト 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>28. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>29. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>30. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>31. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>32. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>33. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>34. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>35. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>36. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>37. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>38. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>39. 1978/2 に近い黄褐色 シルト 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>40. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> | <p>41. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>42. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>43. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>44. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>45. 1978/2 に近い黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>46. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>47. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>48. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>49. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>50. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>51. 1978/2 黄褐色 シルト 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>52. 1978/2 黄褐色 シルト 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>53. 1978/2 黄褐色 シルト 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>54. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>55. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>56. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>57. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>58. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>59. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> <p>60. 1978/2 黄褐色 腐植砂 腐植砂多量を含む。(SK0330)</p> |
|---|--|--|

図7 調査区南壁土層断面図 (S=1/60)





- 1. 河床 [河床砂]
- 2. 1978/9 黄褐色 礫砂層 (砂土)
- 3. 1978/9 黄褐色 礫砂層 第一層砂層を含む。一部粘土を含む。(河床砂層)
- 4. 1978/9 黄褐色 礫砂層 第二層砂層を含む。河床砂層をブロック状に含む。(河床砂層)
- 5. 1978/9 黄褐色 礫砂層 第一層砂層を含む。(河床砂層)
- 6. 1978/9 黄褐色 礫砂層 第一層砂層を含む。粘土を含む。(河床砂層)
- 7. 1978/9 黄褐色 礫土
- 8. 1978/9 黄褐色 礫砂層 第二層砂層を含む。(河床砂層)
- 9. 1978/9 黄褐色 礫砂層 第一層砂層を含む。(河床砂層)
- 10. 1978/9 にごり黄褐色 シルト 1978/9年河床砂層砂層(SK0477)と1978/9年河床砂層(SK0495)を連続的に含む。(河床砂層)
- 11. 1978/9 黄褐色 シルト 1978/9年河床砂層砂層(SK0477)と河床砂層(SK0495)を連続的に含む。(河床砂層)
- 12. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 13. 1978/9 黄褐色 シルト 1978/9年河床砂層(SK0477)と河床砂層(SK0495)を連続的に含む。(河床砂層)
- 14. 1978/9 黄褐色 シルト 1978/9年河床砂層(SK0477)と河床砂層(SK0495)を連続的に含む。(河床砂層)
- 15. 1978/9 黄褐色 礫砂層 砂層を含む。(河床砂層)

- 16. 1978/9 にごり黄褐色 シルト SK0374
- 17. 1978/9 にごり黄褐色 礫土 1978/9年河床砂層(SK0477)と河床砂層(SK0495)を連続的に含む。(河床砂層)
- 18. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 19. 1978/9 黄褐色 礫砂層 砂層を含む。1層砂層を含む。(河床砂層)
- 20. 1978/9 黄褐色 礫土 SK0374
- 21. 1978/9 にごり黄褐色 シルト 1978/9年河床砂層(SK0477)と河床砂層(SK0495)を連続的に含む。(河床砂層)
- 22. 1978/9 黄褐色 礫土 SK0374
- 23. 1978/9 黄褐色 礫土 礫砂層を含む。河床砂層を含む。(河床砂層)
- 24. 1978/9 にごり黄褐色 礫砂層 砂層を含む。(河床砂層)
- 25. 1978/9 黄褐色 シルト 1978/9年河床砂層(SK0477)と河床砂層(SK0495)を連続的に含む。(河床砂層)
- 26. 1978/9 黄褐色 シルト 1978/9年河床砂層(SK0477)と河床砂層(SK0495)を連続的に含む。(河床砂層)
- 27. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 28. 1978/9 黄褐色 礫土 SK0374
- 29. 1978/9 黄褐色 礫土 SK0374
- 30. 1978/9 黄褐色 礫土 砂層を含む。河床砂層を含む。(河床砂層)

- 31. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 32. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 33. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 34. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 35. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 36. 1978/9 黄褐色 シルト 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 37. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 38. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 39. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 40. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 41. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 42. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 43. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 44. 1978/9 黄褐色 シルト 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 45. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 46. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 47. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 48. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 49. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)
- 50. 1978/9 黄褐色 礫土 1層砂層を含む。(河床砂層)

図8 調査区西壁土層断面図 (S=1/60)



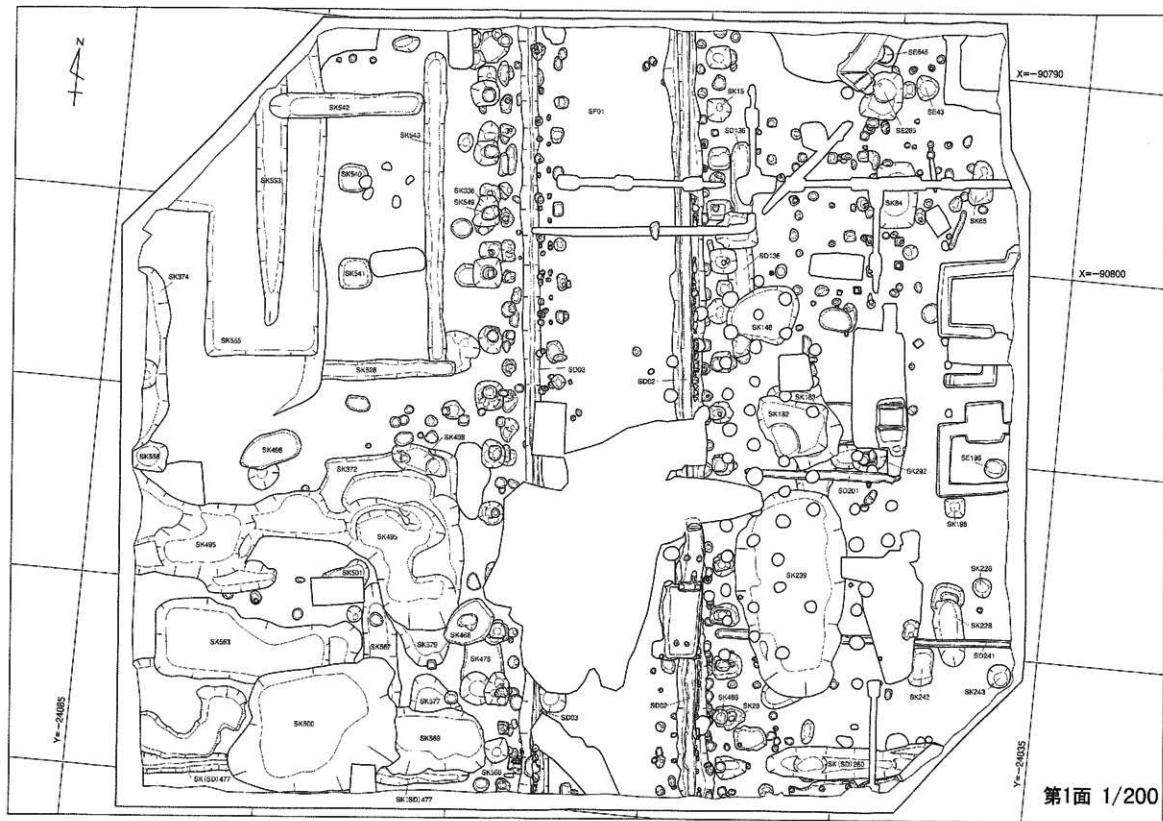


図9 江戸時代の遺構位置図 (S=1/200) [第1面]





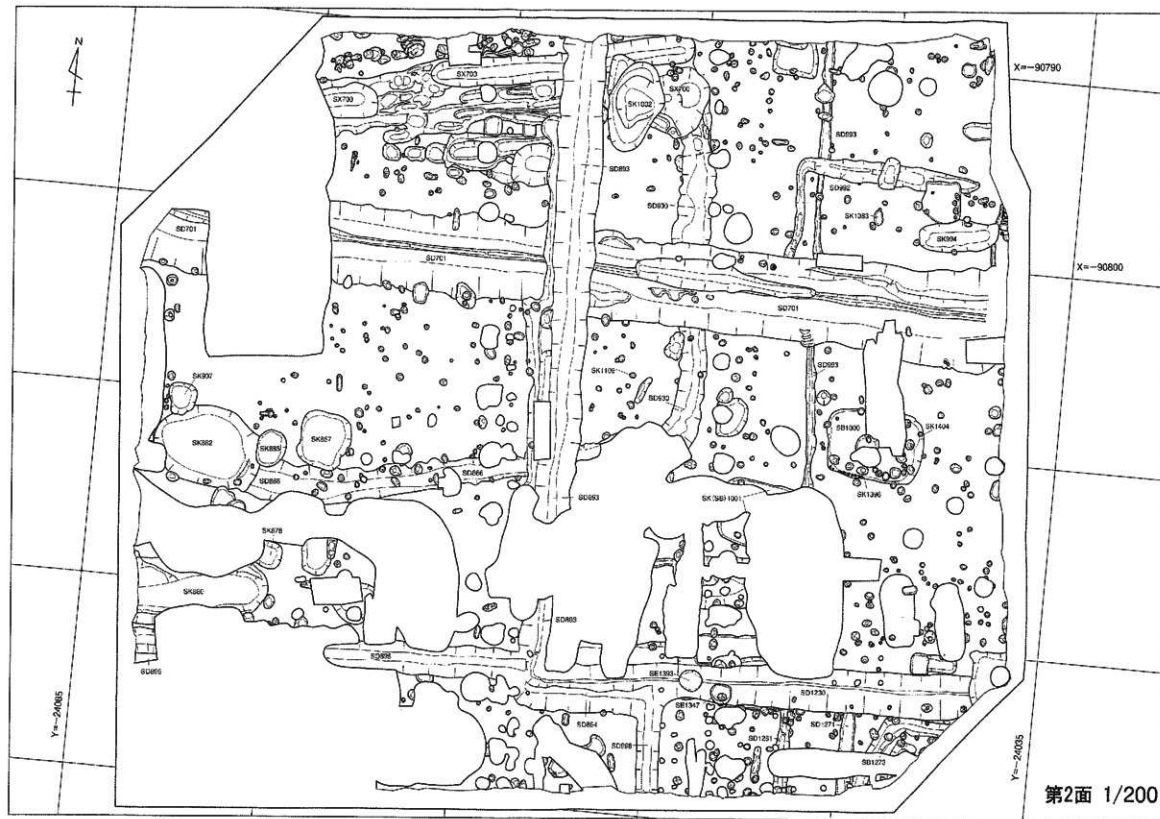


図 10 戦国期～古代の遺構位置圖 (S=1/200) [第 2 面]



### (3) 遺構と遺物

#### ①近代以降の概要

名古屋城では、1872年(明治5)に東京鎮台第三分営(のち名古屋鎮台)が名古屋城内に置かれ、1874年(明治7)には、三之丸九曲城が陸軍省に移管された。そして、三之丸の中央北部にあたる当調査地のあたりは、1879年(明治11)名古屋鎮台に陸軍の砲兵第3大隊として創設され、砲兵第3連隊を経て、1890年(明治22)に野砲兵第3連隊がおかれていた。調査地点は、朝礼や行進などを行なう「営庭」と呼ばれる広場にあたり、1900～1903年(昭和12～15)頃には、中国大陸への派兵のための訓練場にもなっていた。その頃の遺構として訓練用の塹壕や個人用掩体(えんたい)、防空壕などを江戸時代の盛土面で見出し。そして、終戦後の当地は、米国進駐軍の施設として営庭を利用した野球場(キャッスル野球場)となっていたところである。

#### ●塹壕

幅50cmほど、深さ80～110cmほどの直線状の溝に3～4mごとに幅60cmほど、長さ120cmほどの長方形のスペースを取り付けた塹壕が見つかったほか、U字形やT字形の溝や方形の小部屋を設けた塹壕を見出した。堀土からの遺物はほとんど無かったが、プラスチック製の歯ブラシやアメリカ合衆国の調達物品の伝票とおもわれるカードが出土した。

#### ●個人用掩体(俗称「たこつぼ」)

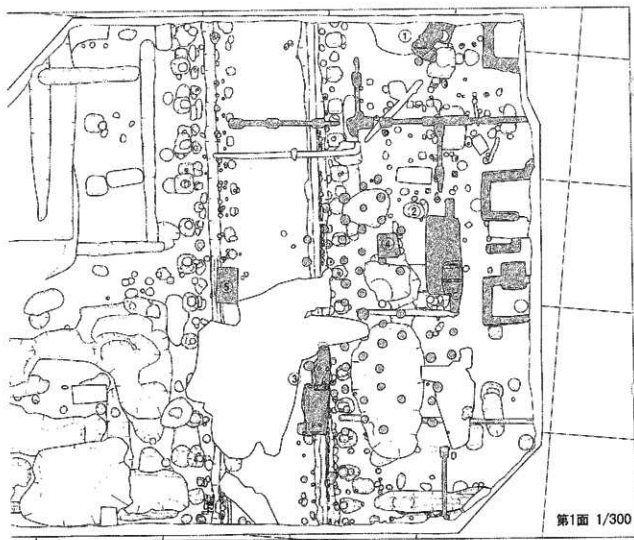
訓練のための個人用の塹壕で個人用掩体と呼ばれる径60～70cmほど、現状の深さが80cmほどの円形の土坑が60基ほど検出された。分布域が江戸時代の道路遺構(「御太鼓槽筋」)より東側で塹壕に囲まれた範囲に集中することは、訓練のあり方を示すものであろうか。穴を掘ってすぐ埋めることが多かったようで、埋まった土も近世の盛土の黄灰白色のシルト質土である。出土品は、ほとんど無かったが、一箇所から錆びた銃剣とおもわれる破片が出土した。

#### ●防空壕

防空壕と考えられる遺構が3箇所で見出された。いずれも調査区東半(A区)の塹壕等のつくられた範囲に位置し、南北に長く並んでいる。これらは、野砲兵第3連隊で使用されたものとおもわれるが、一定の規格でつくられたのであろう。南側の1基は、出入口通路と部屋の間に扉のあるつくりで、戸の軸を受ける礎石が据えられていた。部屋の床下(?)には、太い根太状の丸木で、表面を焼いたものを3本並べていて、文書や図面を緊急避難させるための施設かもしれない。

#### ●貯水槽(?)

16～18m四方、現状で深さ0.8mほどの浴槽状の土坑内面を白色と紫色が混じる粘土で厚さ15cmほど貼って表面を平滑に仕上げたものである。水を溜める施設であったとおもわれる。同規格の遺構が2箇所のほか、16～26m四方で現状の深さ0.8mほどの長方形の土坑が見出され、この内面には、漆喰が6～7cmの厚さで貼られていた。これも同様の機能をもつ施設であったと思われる。



第1面 1/300

図11 「野砲兵第3連隊」時代の遺構〔①～③防空壕、④⑤貯水槽、他は個人用掩体(たこつぼ)と塹壕〕

## ② 近世の概要

### A 整地土

表土除去作業の際、現地表から70～90cm下に黄灰白色のシルト質土が調査区のほぼ全域に広がっている状態を検出した。これらの土層は、調査区西側の愛知県警察本部地点の調査でも検出されていたものの、これまで当遺跡の他の調査では、ほとんど確認されなかった土である。本来の自然堆積層ではないと判断され、調査の結果、当調査地点付近では、名古屋城「二之丸」築城時、最初の段階で戦国時代以前の地面(標高約11.5m)の上に80cmほどの厚さで盛土し、地盤整備がなされていたとおもわれる。この上の築込には、北側にある二之丸南の堀を掘削した際の発生土(この地域の地山である熱田層)を使用したと考えられ、北側から順に土を積んでいった作業の状況が調査区東壁の土層断面で観察された(写真10)。また、この盛土は調査区の南壁付近ではほとんど無くなっており、江戸時代後期以降の包含層または、その上の整地土が南側に続くようである。



写真8 盛土上面の検出遺構

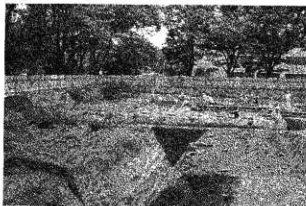


写真9 盛土面の調査(奥)



写真10 盛土層断面(調査区東壁)

### B 道路・側溝

盛土による整地土の上面で遺構の検出を行う作業のなかで、調査区中央部を南北方向に約7mほどの直線状で非常に硬く締まった部分が検出された。この部分は、名古屋城の三之丸中央部に位置する南北の道路で、二之丸の「御太鼓槽」付近から南へのびていることから「御太鼓槽筋」と呼ばれた道路であり、道路表面には、数cm大のチャートなどの礫を敷いてめり込んだ状態の部分があり、砂利敷きの道路であったことが判った。

また、道路幅の両端には、素掘りの側溝があり、堀土の遺物から江戸時代後期にはほとんど埋まっていたと思われ、堀土の上に上層の基礎と考えられる一段の石列が道路東側に残存していた。側溝の断面形は、浅い逆台形で、現代の道路の側溝と同じ状態にあり、埋まるまでは悪水路として、雨水や屋敷地からの排水の機能があったと思われる。堀土下半には、微粒の砂やシルトが層状に溜まっていた。側溝底の傾斜は、調査区北端部から調査区南端部までの約40mの間で南端部側が約20cm下がっている。

### C 溝状遺構

短いものや、幅の広いものなど、規模や形態の違いがあり、機能にも各種あったものと思われる。屋敷地割と考えられる溝は、SK(SD)477とした遺構であり、西側の愛知県警察本部地内の調査地点で検出された溝(SD202)の延長部分とおもわれ竹腰家の南側境界を示し、三之丸造営当初に設定されたものとおもわれる。その他の各種短い溝などの機能については、現在のところ明確でない。

### D 塀の基礎

屋敷地の外周に造られた土塀等の基礎列と考えられる遺構が整地土上で検出された。屋敷地の道路際は一辺1.5m前後の隅丸形状の遺構が、ほぼ3m間隔で一列に並ぶ状態で検出された。これより規模の小さい柱穴列もあり、時期差による別の基礎遺構か同一構造物の遺構かは、現在のところ明確でない。道路西側の竹腰家側と道路東側の久野・横井・鈴木などの順で拝領された各氏屋敷地であった側の塀の基礎遺構の規模や形状もほぼ同じであった。

### E 土蔵の基礎

調査区の北西部において、整地土上で検出された長方形を呈する土蔵の基礎の遺構である。土蔵の壁部分の基礎は溝状で、幅が1.0～1.5m、長辺約14m、短辺約8.5mの長方形を呈し、堀土は、砂利と粘質土(シルト)を交互に入れて突き固める工法を施したとおもわれる状態で、深さは検出から約50cmであった。この壁部分の基礎の内側には、大棟の位置に2箇所(一辺約1.5～1.7mの隅丸形状を呈している。)があり、この柱穴の埋土も径数cmから10cmの礫とシルトを互層に積んだ埋土として基礎にしている。これらの基礎は、いずれも上層上層の重量に耐える強固な基礎として構築されたものである。

### F 土坑

調査区の道路西側は、竹腰家屋敷地の最奥部にあたり、特に南半は大規模な廃棄土坑が重複して造られていて、江戸時代中期頃(18世紀代)と幕末頃の大規模土坑が集中する。道路東側では、同じ屋敷地を久野氏(17世紀)、横井氏(18世紀)、鈴木氏(18世紀末)などの変遷で拝領された屋敷地のうち、その西南部が当調査区的位置にあると推定される。江戸時代前期の土坑は、比較的小型で数も多くないが、江戸時代中期頃(18世紀中頃)には、巨大な廃棄土坑(幅約6m、長さ約11mの楕円形)が造られ、拝領が終わる際に、日常用品等で不用になった器物を処分したものと思われる。

### G 井戸

井戸の遺構は比較的に少なく、竹腰家側では1基、道路東側では、数基が調査区の東側に片寄り、敷地内でも、建物(厩住城)に近い部分に井戸が造られているとおもわれる。

## II 建物跡

調査区の道路跡を境に東半部(A区)のうち北側に、径50cm以下のピット(柱穴などの小穴)が方形に配置している状況であるが、一連の建物の推定が困難である。

## B 道路・側溝など

### ●SF01

- <形状>直線状
- <長さ>検出長40m
- <幅>7.0m
- <深さ>
- <埋土>表面の一部に小礫敷きが残存
- <主な出土遺物と時期>
- <遺構の性格など>道路(「御太鼓橋筋」)

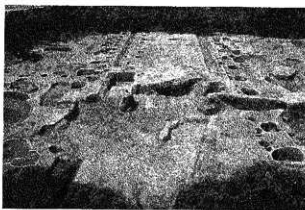


写真11 道路遺構(「御太鼓橋筋」)

### ●石列

- <形状>1段の石列で直線状
- <長さ>現存部最長で7.5m
- <幅>石の奥行き0.40m以内
- <深さ>石の高さ0.40m以内
- <埋土>側溝の埋土上位に構築
- <主な出土遺物と時期>割石、礫を少し含む。
- <遺構の性格など>道路に面した土層の基礎石か



写真12 石列

### ●SD02(東側側溝)

- <形状>直線状
- <長さ>検出長40m
- <幅>1.4m
- <深さ>0.42m
- <埋土>シルトおよび砂
- <主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器碗、皿、棧瓦片など。19世紀中頃。
- <遺構の性格など>道路の側溝(築城期の区画溝)



写真13 側溝(SD02)

### ●SD03(西側側溝)

- <形状>直線状
- <長さ>検出長40m
- <幅>0.97m
- <深さ>0.44m
- <埋土>シルトおよび砂
- <主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器碗片、軒棧瓦など。19世紀中頃
- <遺構の性格など>道路の側溝(築城期の区画溝)



写真14 側溝(SD03)



C 溝状遺構

●SD136

<形状>太短い溝状

<長さ>11.1m

<幅>1.3m

<深さ>0.76m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>御深井科  
丸皿、肥前染付磁器小杯、肥  
前系陶器皿、中国磁器など。  
17世紀～18世紀初。

<遺構の性格など>南北方向の溝



写真15 SD136



写真16 SD136出土遺物

●SD201

<形状>溝状

<長さ>8.1m

<幅>0.50m

<深さ>0.25m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>肥前染付磁器皿、常滑赤  
物鉢、瀬戸美濃陶器片など。18世紀後半か。

<遺構の性格など>東西方向の溝



写真17 SD201出土遺物

●SD241

<形状>溝状

<長さ>(15.3)m

<幅>0.36m

<深さ>0.12m

<埋土>暗褐色砂質土、細礫含む

<主な出土遺物と時期>染付磁器碗片など。19世  
紀前半か。

<遺構の性格など>東西方向の溝

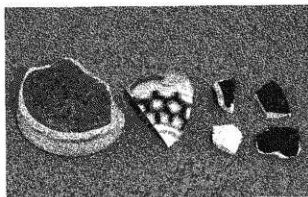


写真18 SD241出土遺物

●SK(SD)260

<形状>溝状

<長さ>(7.6)m

<幅>1.7m

<深さ>1.6m

<埋土>暗褐色土

<主な出土遺物と時期>瀬戸播鉢片、瀬戸拳骨茶碗片など。18世紀。

<遺構の性格など>屋敷境の溝か。



写真19 SK(SD)260

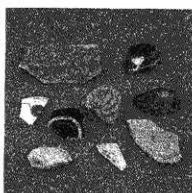


写真20 SK(SD)260出土遺物

●SK(SD)477

<形状>溝状

<長さ>(17.0)m

<幅>(0.76)m

<深さ>1.4m

<埋土>暗褐色土

<主な出土遺物と時期>肥前染付磁器、志野丸皿、美濃陶器灰輪皿、唐津丸皿、瀬戸播鉢、内耳銅など。17世紀代。

<遺構の性格など>築城期、屋敷割の区画溝か。



写真21 SK(SD)477



写真22 SK(SD)477出土遺物

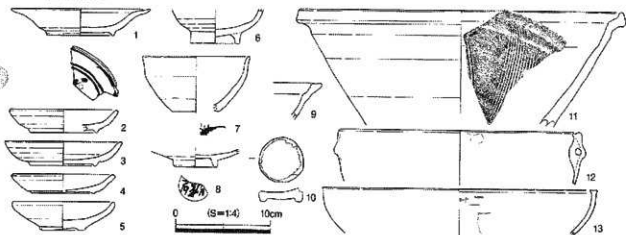


図12 SK(SD)477遺跡遺物一覽

表1 SK(SD)477埋藏遺物一覽

遺物番号/種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号/種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	
1	銅器	内耳銅	17世紀、瀬戸産	8	陶器	唐津
2	陶器	志野丸皿	17世紀、瀬戸産	9	銅器	播鉢
3	陶器	志野丸皿	17世紀、瀬戸産	10	陶器	美濃
4	陶器	志野丸皿	17世紀、瀬戸産	11	陶器	肥前
5	陶器	志野丸皿	17世紀、瀬戸産	12	銅器	内耳銅
6	陶器	唐津丸皿	17世紀、瀬戸産	13	銅器	内耳銅
7	銅器	内耳銅	17世紀、瀬戸産			

D 塚の基礎

●SK15

<形状>隅丸方形

<長さ>1.26m

<幅>1.26m

<深さ>1.00m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>染付磁器碗、  
青磁香炉、播鉢など、18世紀。

<遺構の性格など>道路東側屋敷地。  
土塀の柱穴。



写真23 SK15

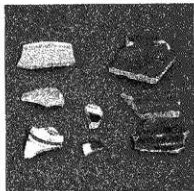


写真24 SK15出土遺物

●SK26

<形状>隅丸方形

<長さ>1.57m

<幅>1.35m

<深さ>0.95m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>染付磁器碗・  
皿、瀬戸美濃産陶器皿など、18世紀。

<遺構の性格など>道路東側屋敷地。  
土塀の柱穴。

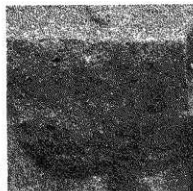


写真25 SK26(埋土断面)

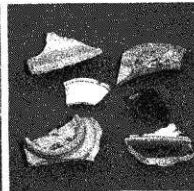


写真26 SK26出土遺物

●SK486

<形状>隅丸方形

<長さ>0.72m

<幅>0.58m

<深さ>0.76m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>18世紀代。

<遺構の性格など>道路東側屋敷地。  
土塀の柱穴、SK26を切る。

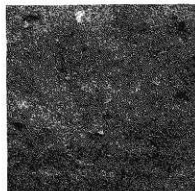


写真27 SK486(埋土断面:中央部)

●SK336

<形状>不整台形

<長さ>1.67m

<幅>1.39m

<深さ>1.24m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>平瓦など。17世紀か。

<遺構の性格など>道路西側、竹腰家屋敷地。土塀の柱穴。

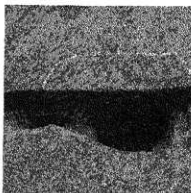


写真28 SK336



写真29 SK336出土遺物

●SK549

<形状>楕円形

<長さ>0.94m

<幅>0.70m

<深さ>0.60m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>17世紀か。

<遺構の性格など>SK336を切る。

道路西側、竹腰家屋敷地。土塀の柱穴。

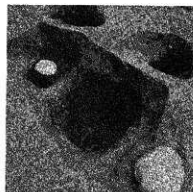


写真30 SK549

●SK568

<形状>隅丸方形

<長さ>1.33m

<幅>1.25m

<深さ>1.08m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>梅鉢紋の軒棧瓦、染付磁器小瓶。18世紀後半。

<遺構の性格など>道路西側、竹腰家屋敷地。土塀の柱穴。

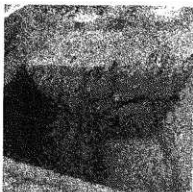


写真31 SK568

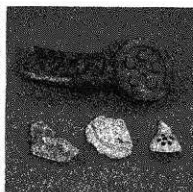


写真32 SK568出土遺物

E 土蔵の基礎

●SK540

<形状>隅丸方形

<長さ>1.51m

<幅>1.48m

<深さ>0.58m

<埋土>黄白色シルトと拳大の礫を互層に詰める。

<主な出土遺物と時期>瀬戸摺鉢片など。18世紀中頃か。

<遺構の性格など>土蔵の大棟を支える柱の一つ。

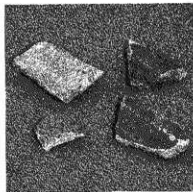
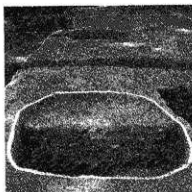


写真33 SK541とSK540(奥) 写真34 SK540出土遺物

●SK541

<形状>隅丸方形

<長さ>1.68m

<幅>1.59m

<深さ>0.55m

<埋土>黄白色シルトと拳大の礫を互層に詰める。

<主な出土遺物と時期>戦国期の摺鉢片

<遺構の性格など>土蔵の大棟を支える柱の一つ。

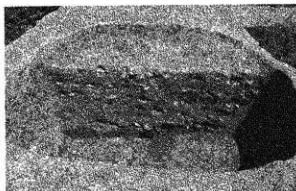


写真35 SK541

●SK542

<形状>溝状

<長さ>8.02m

<幅>1.34m

<深さ>0.53m

<埋土>黄白色シルトと小石を互層に敷く。

<主な出土遺物と時期>古瀬戸片、陶丸

<遺構の性格など>土蔵の礎の基礎。

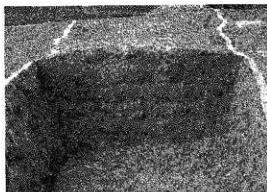


写真36 SK542

## F 土坑

### ●SK65(以下FのSKはA区検出)

<形状>不整形円形

<長さ>2.22m

<幅>1.18m

<深さ>0.21m

<埋土>褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>染付磁器碗片、瀬戸瀧鉢片、内耳鍋片など。19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑か

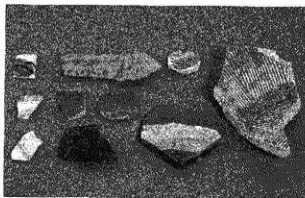


写真37 SK65出土遺物

### ●SK84

<形状>隅丸長方形

<長さ>3.51m

<幅>(1.76)m

<深さ>0.99m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器、染付磁器、常滑甕、煙管、火打石、火打金など。19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑



写真38 SK84

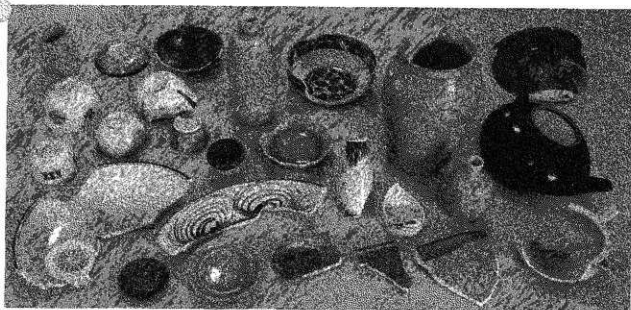


写真39 SK84出土遺物

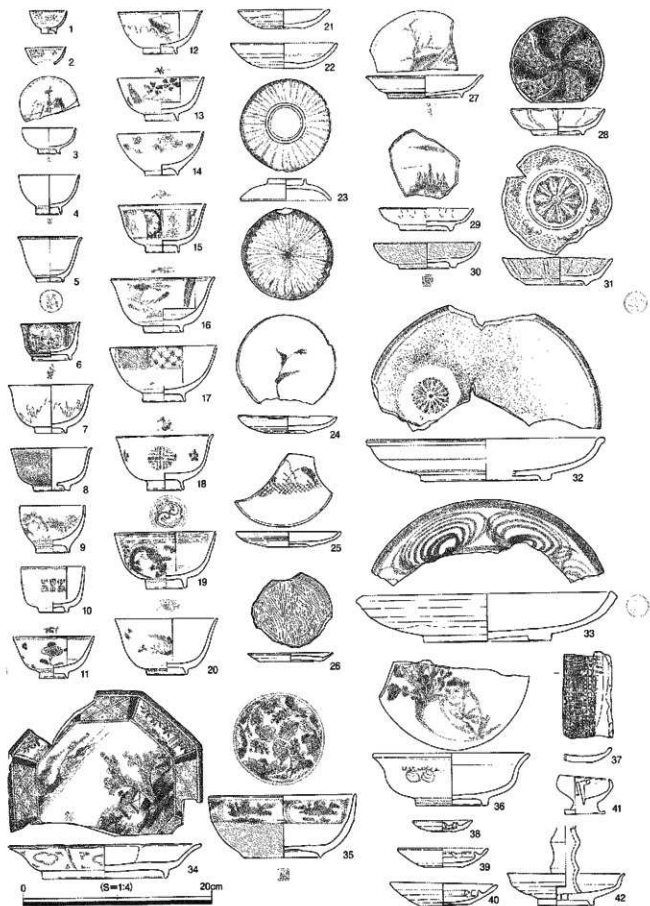


图13 SK84出土遗物(1)

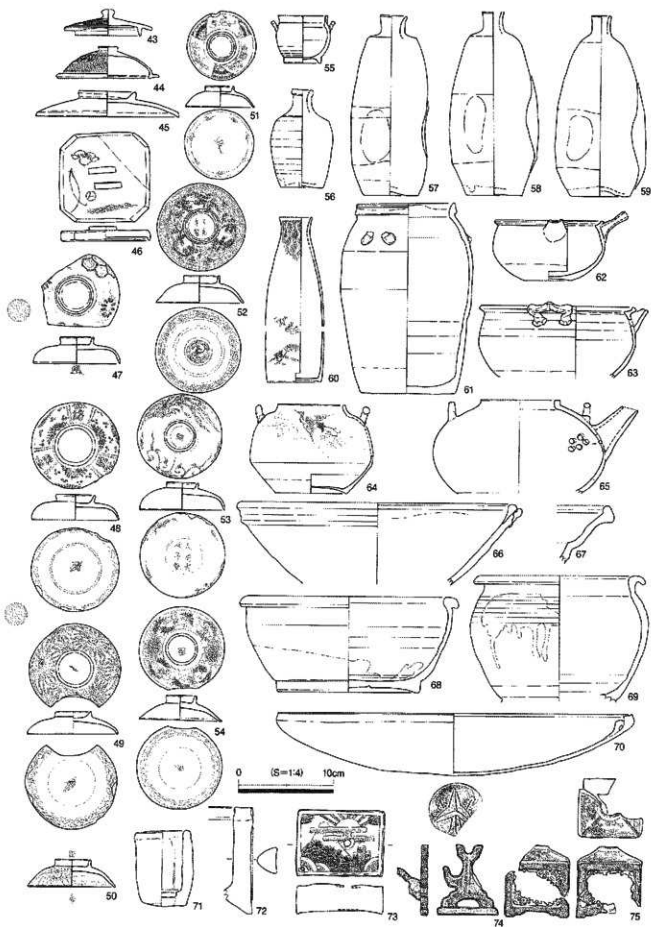


图14 SK84出土遺物(2)



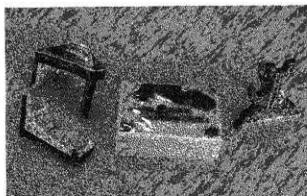


写真40 SK84出土遺物

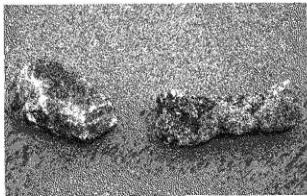


写真41 SK84出土遺物(火打石・火打金)

表2 SK84発掘遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	磁器	土器台小杯	19世紀中期、赤、青、黄、緑色の赤土土器台付
2	磁器	土器台小杯	19世紀中期、赤、黄、青、緑色の赤土土器台付
3	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期
4	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期
5	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期
6	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期
7	漆器	土器台小杯	19世紀中期、茶箱、人物の土器台付
8	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
9	磁器	磁器台小杯	19世紀中期、外箱全体にコバルト色
10	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期、青、黄、緑色の赤土土器台付
11	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期、赤、黄、緑色の赤土土器台付
12	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期、赤、黄、緑色の赤土土器台付
13	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期、赤、黄、緑色の赤土土器台付
14	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期、赤、黄、緑色の赤土土器台付
15	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期、赤、黄、緑色の赤土土器台付
16	磁器	土器台小杯	19世紀中期、赤、黄、緑色の赤土土器台付
17	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期、赤、黄、緑色の赤土土器台付
18	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期、赤、黄、緑色の赤土土器台付
19	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期、赤、黄、緑色の赤土土器台付
20	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期、赤、黄、緑色の赤土土器台付
21	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期、赤、黄、緑色の赤土土器台付
22	磁器	土器台小杯	19世紀中期、赤、黄、緑色の赤土土器台付
23	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
24	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
25	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
26	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
27	土器	小杯	19世紀中期、内箱全体にコバルト色
28	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期
29	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期
30	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期
31	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期
32	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期
33	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
34	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
35	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期
36	磁器	金付磁器小杯	19世紀中期
37	陶器	磁器台小杯	19世紀中期
38	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
39	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
40	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
41	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
42	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
43	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
44	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
45	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
46	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
47	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
48	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
49	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
50	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
51	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
52	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
53	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
54	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
55	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
56	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
57	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
58	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
59	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
60	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
61	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
62	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
63	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
64	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
65	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
66	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
67	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
68	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
69	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
70	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
71	土器	小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
72	土器	小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
73	土器	小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
74	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃
75	陶器	磁器台小杯	19世紀中期、瀬戸美濃

●SK148

<形状>不整楕円形

<長さ>3.64m

<幅>2.83m

<深さ>0.44m

<埋土>褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>阿深井輪型

打皿、肥前柴付磁器、白磁、京焼

風陶器(「清水」銘)など。17世紀後

半頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑か

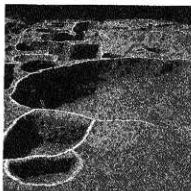


写真42 SK148

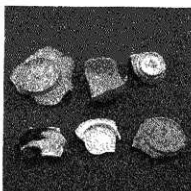


写真43 SK148出土遺物



●SK167

<形状>楕円形

<長さ>1.71m

<幅>1.18m

<深さ>0.38m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃焼製、内耳鍋片

など。18世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑か

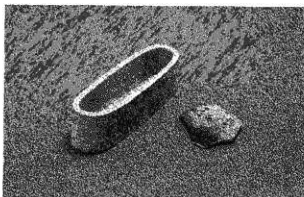


写真44 SK167出土遺物



●SK182

<形状>不整方形

<長さ>4.71m

<幅>(2.83)m

<深さ>0.30m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>柴付磁器碗

片、瀬戸美濃陶器片、焼燗壺、土

師皿など。19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑か



写真45 SK182



写真46 SK182出土遺物

●SK183

<形状>不整長方形

<長さ>4.26m

<幅>2.85m

<深さ>0.90m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸御皿、  
瀬戸美濃陶器徳利、染付磁器碗、  
瀬戸播鉢、常滑壺、軒棧瓦など。

19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑か

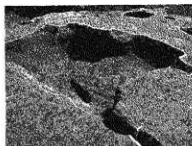


写真47 SK183

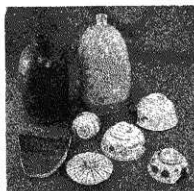


写真48 SK183出土遺物

●SK198

<形状>隅丸方形

<長さ>1.04m

<幅>1.00m

<深さ>0.96m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃碗、  
皿、鉢、播鉢片。手づくね土師質  
小皿など。17世紀中頃。

<遺構の性格など>地下室(ちかむろ)か。

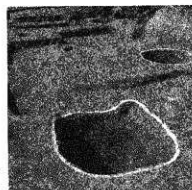


写真49 SK198

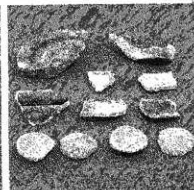


写真50 SK198出土遺物

●SK228

<形状>不整楕円形

<長さ>4.41m

<幅>1.55m

<深さ>0.92m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃天  
目茶碗、播鉢、瀬戸美濃丸碗、志  
野丸皿、土師皿、軒丸瓦など。17  
世紀中頃。

<遺構の性格など>階段付の地下室  
(ちかむろ)。後に廃棄土坑。

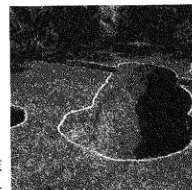


写真51 SK228

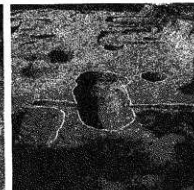


写真52 SK228

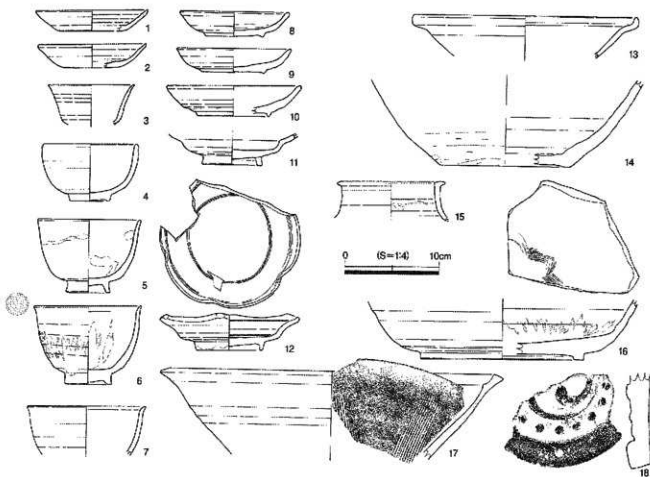


图15 SK228出土遺物

表3 SK228陶製遺物一覽

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土器器	鉢	5c(5c前期)	16	陶器	丸皿	5c前期, 17世紀
2	土器器	鉢	5c(5c前期)	11	陶器	羽織鉢	5c前期, 17世紀
3	陶器	小鉢	17世紀, 17世紀	12	陶器	羽織野原鉢	5c前期, 17世紀
4	陶器	流	5c前期, 17世紀	13	陶器	羽織鉢	5c前期, 17世紀
5	陶器	碗	5c前期, 17世紀	14	陶器	鉢	5c前期, 17世紀
6	陶器	碗	5c前期, 17世紀	15	陶器	定	5c前期, 17世紀
7	陶器	碗	5c前期, 17世紀	16	陶器	大鉢	5c前期, 17世紀
8	陶器	丸皿	5c前期, 17世紀	17	陶器	鉢	17世紀
9	陶器	丸皿	5c前期, 17世紀	18	瓦	軒瓦瓦	

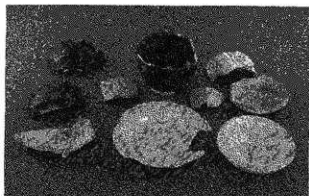


写真53 SK228出土遺物



写真54 SK228出土遺物



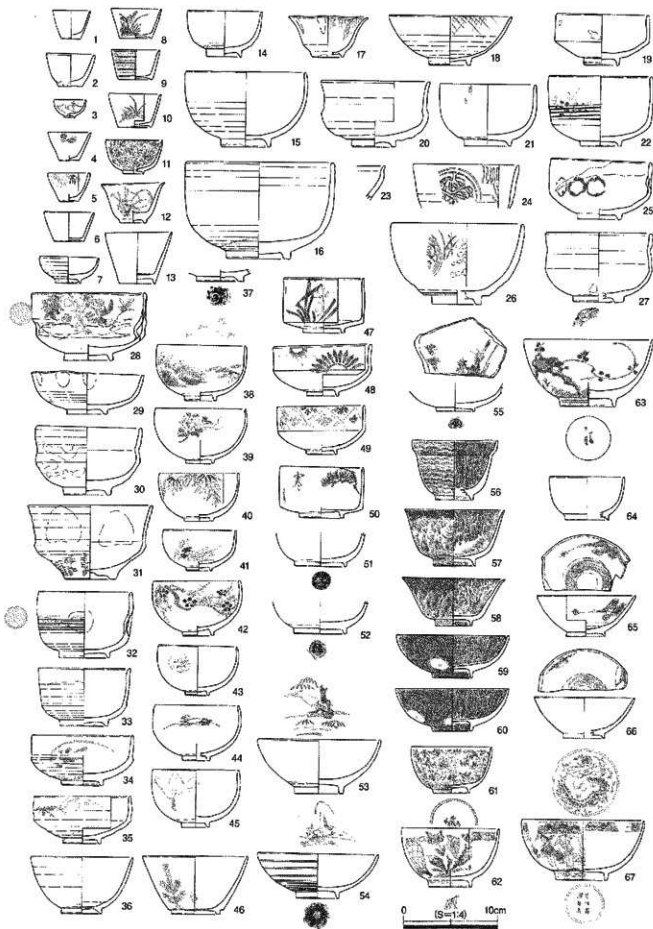


图16 SK239出土遺物(1)

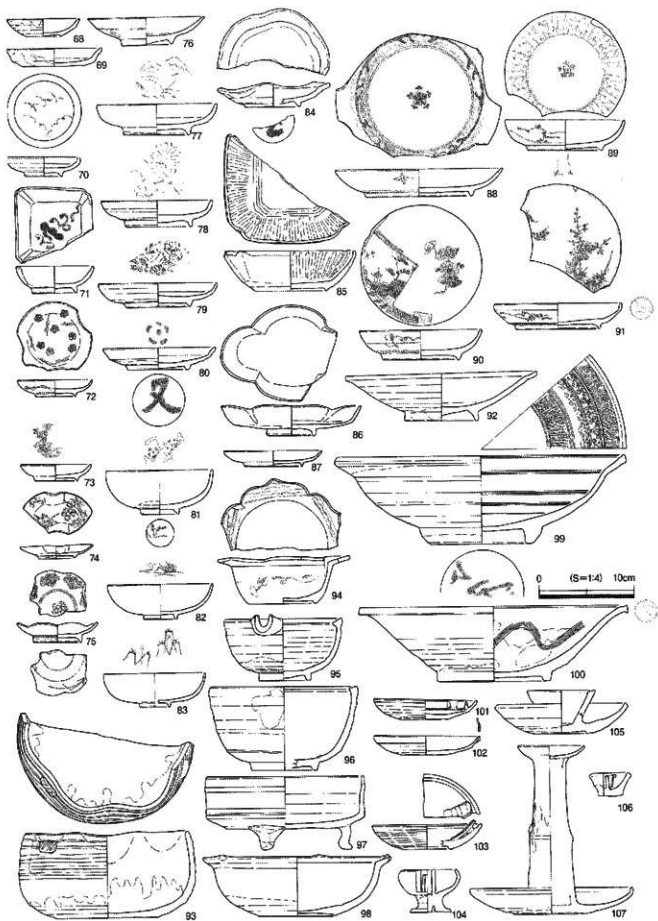


图17 SK239出土遺物(2)

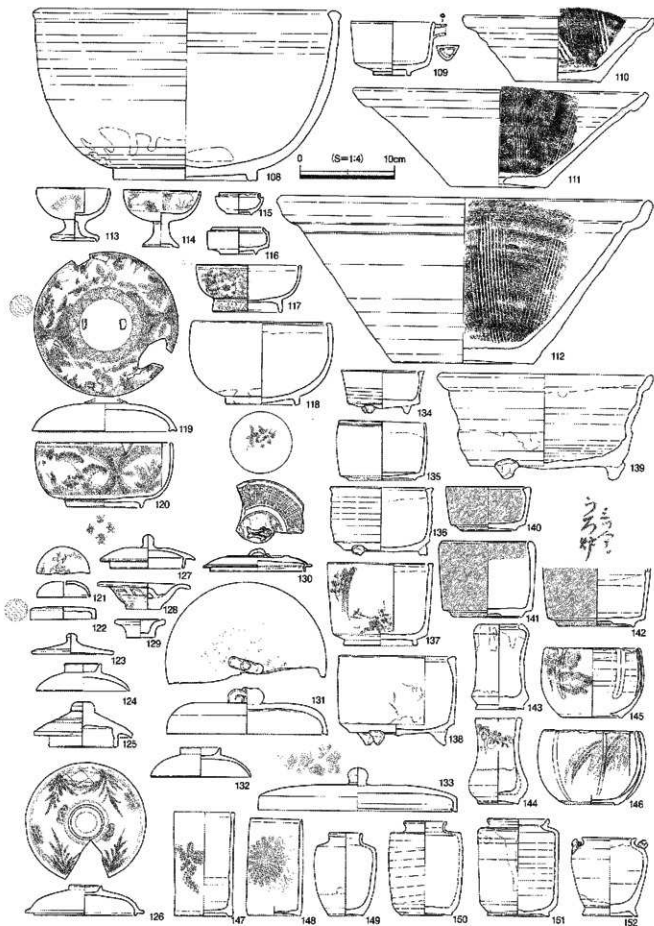


図18 SK239出土遺物(3)



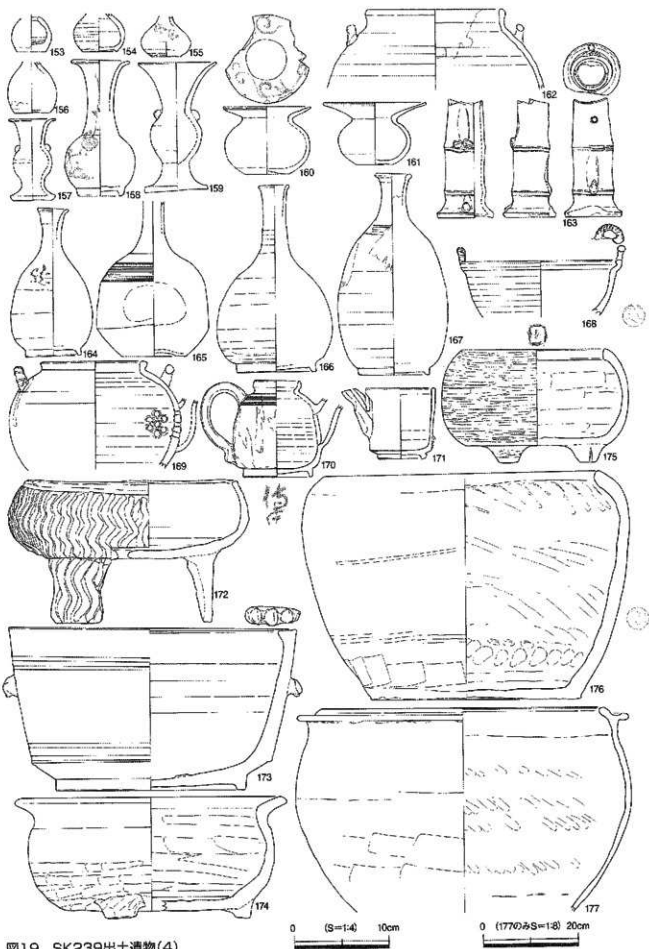


図19 SK239出土遺物(4)

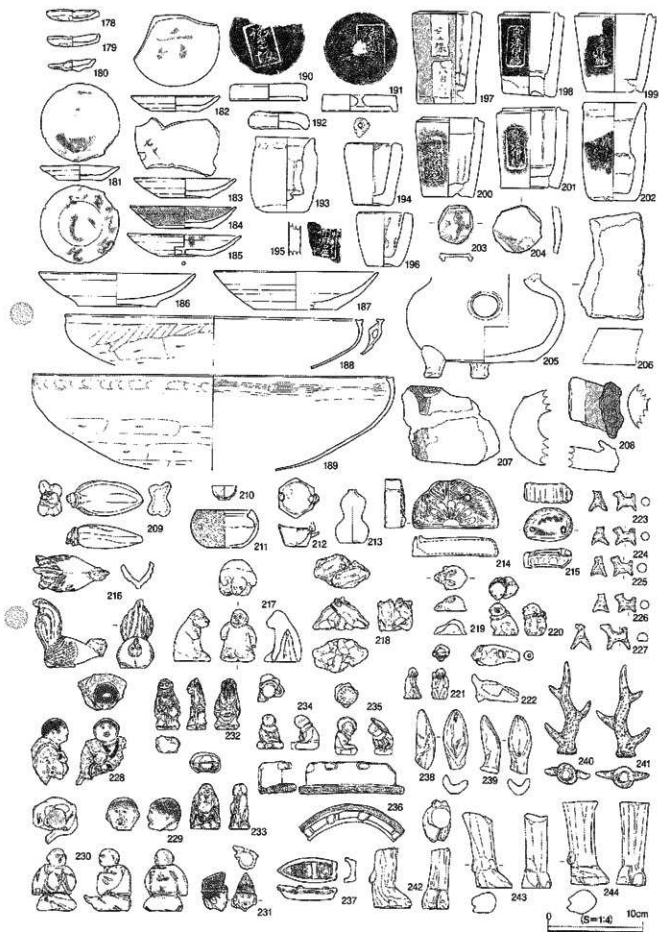


图20 SK239出土遗物(5)



表6 SK2399掲載遺物一覽(2)

遺物番号	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	遺物名	時期・生産地・特徴など
87	陶器	打物盛鉢	194	土師器	水甕
88	陶器	土師器	195	土師器	土甕
89	陶器	土師器	197	土師器	土甕
90	陶器	土師器	198	土師器	土甕
91	土器	土師器	199	土師器	土甕
92	土器	土師器	200	土師器	土甕
93	土器	土師器	201	土師器	土甕
94	土器	土師器	202	土師器	土甕
95	土器	土師器	203	土師器	土甕
96	土器	土師器	204	土師器	土甕
97	土器	土師器	205	土師器	土甕
98	土器	土師器	206	土師器	土甕
99	土器	土師器	207	土師器	土甕
100	土器	土師器	208	土師器	土甕
101	土器	土師器	209	土師器	土甕
102	土器	土師器	210	土師器	土甕
103	土器	土師器	211	土師器	土甕
104	土器	土師器	212	土師器	土甕
105	土器	土師器	213	土師器	土甕
106	土器	土師器	214	土師器	土甕
107	土器	土師器	215	土師器	土甕
108	土器	土師器	216	土師器	土甕
109	土器	土師器	217	土師器	土甕
110	土器	土師器	218	土師器	土甕
111	土器	土師器	219	土師器	土甕
112	土器	土師器	220	土師器	土甕
113	土器	土師器	221	土師器	土甕
114	土器	土師器	222	土師器	土甕
115	土器	土師器	223	土師器	土甕
116	土器	土師器	224	土師器	土甕
117	土器	土師器	225	土師器	土甕
118	土器	土師器	226	土師器	土甕
119	土器	土師器	227	土師器	土甕
120	土器	土師器	228	土師器	土甕
121	土器	土師器	229	土師器	土甕
122	土器	土師器	230	土師器	土甕
123	土器	土師器	231	土師器	土甕
124	土器	土師器	232	土師器	土甕
125	土器	土師器	233	土師器	土甕
126	土器	土師器	234	土師器	土甕
127	土器	土師器	235	土師器	土甕
128	土器	土師器	236	土師器	土甕
129	土器	土師器	237	土師器	土甕
130	土器	土師器	238	土師器	土甕
131	土器	土師器	239	土師器	土甕
132	土器	土師器	240	土師器	土甕
133	土器	土師器	241	土師器	土甕
134	土器	土師器	242	土師器	土甕
135	土器	土師器	243	土師器	土甕
136	土器	土師器	244	土師器	土甕
137	土器	土師器	245	土師器	土甕
138	土器	土師器	246	土師器	土甕
139	土器	土師器	247	土師器	土甕
140	土器	土師器	248	土師器	土甕
141	土器	土師器	249	土師器	土甕
142	土器	土師器	250	土師器	土甕
143	土器	土師器	251	土師器	土甕
144	土器	土師器	252	土師器	土甕
145	土器	土師器	253	土師器	土甕
146	土器	土師器	254	土師器	土甕
147	土器	土師器	255	土師器	土甕
148	土器	土師器	256	土師器	土甕
149	土器	土師器	257	土師器	土甕
150	土器	土師器	258	土師器	土甕
151	土器	土師器	259	土師器	土甕
152	土器	土師器	260	土師器	土甕
153	土器	土師器	261	土師器	土甕
154	土器	土師器	262	土師器	土甕
155	土器	土師器	263	土師器	土甕
156	土器	土師器	264	土師器	土甕
157	土器	土師器	265	土師器	土甕
158	土器	土師器	266	土師器	土甕
159	土器	土師器	267	土師器	土甕
160	土器	土師器	268	土師器	土甕
161	土器	土師器	269	土師器	土甕
162	土器	土師器	270	土師器	土甕
163	土器	土師器	271	土師器	土甕
164	土器	土師器	272	土師器	土甕
165	土器	土師器	273	土師器	土甕
166	土器	土師器	274	土師器	土甕
167	土器	土師器	275	土師器	土甕
168	土器	土師器	276	土師器	土甕
169	土器	土師器	277	土師器	土甕
170	土器	土師器	278	土師器	土甕
171	土器	土師器	279	土師器	土甕
172	土器	土師器	280	土師器	土甕
173	土器	土師器	281	土師器	土甕
174	土器	土師器	282	土師器	土甕
175	土器	土師器	283	土師器	土甕
176	土器	土師器	284	土師器	土甕
177	土器	土師器	285	土師器	土甕
178	土器	土師器	286	土師器	土甕
179	土器	土師器	287	土師器	土甕

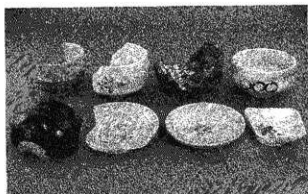


写真56 SK239出土遺物(瀬戸・美濃陶器)

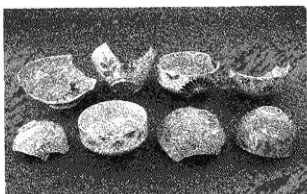


写真57 SK239出土遺物(京・信楽陶器)



写真58 SK239出土遺物(肥前系陶磁器)

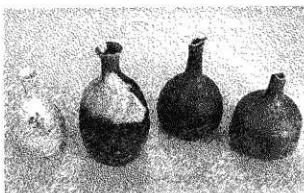


写真59 SK239出土遺物(佐利)

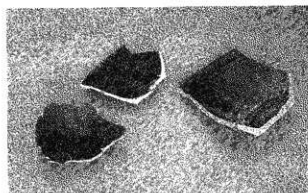


写真60 SK239出土遺物(播鉢)



写真61 SK239出土遺物(三足盤)

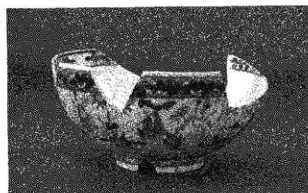


写真62 SK239出土遺物(肥前色絵磁器碗)

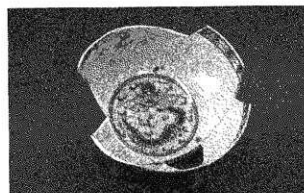


写真63 SK239出土遺物(同左内面)

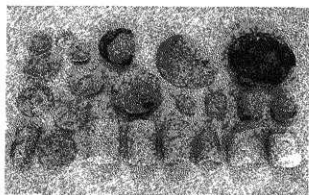


写真64 SK239出土遺物(土師質皿と焼塩杵)

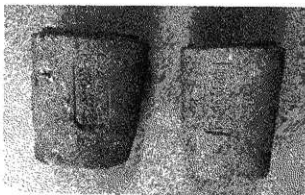


写真65 SK239出土遺物(焼塩甕の刻印)

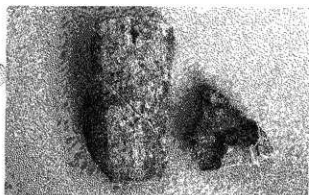


写真66 SK239出土遺物(享保十六年(1731)か)

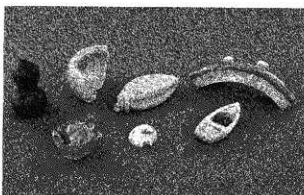


写真67 SK239出土遺物ミニチュアなど

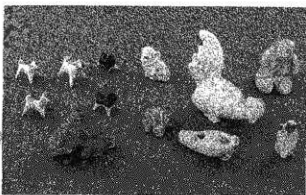


写真68 SK239出土遺物(動物など)

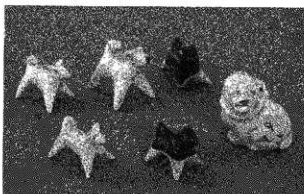


写真69 SK239出土遺物(犬)

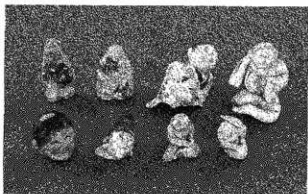


写真70 SK239出土遺物(人物)

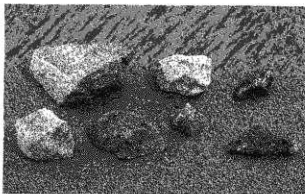


写真71 SK239出土遺物(火打石と火打金)

●SK242

<形状>隅丸長方形

<長さ>1.99m

<幅>(1.06) m

<深さ>0.35m

<埋土>灰黄褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸指鉢片、  
土鍋片など。17世紀代か。

<遺構の性格など>不明



写真72 SK242(手前左端)



写真73 SK242出土遺物

●SK292

<形状>不整形円形

<長さ>1.70m

<幅>(1.27) m

<深さ>1.45m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>志野丸皿、焼塩壺など。17  
世紀中頃か。

<遺構の性格など>不明



写真74 SK292出土遺物

●SK372(以下のSKはB区検出)

<形状>不整形方形か

<長さ>6.97m

<幅>(2.88) m

<深さ>0.23m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器、瀬戸指鉢、  
御深井種皿、肥前系磁器皿、碗、現川焼碗、  
軒丸瓦、軒平瓦、焼塩壺、土師皿、常滑甕、鬼瓦  
片など。17世紀末～18世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑

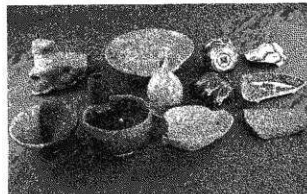


写真75 SK372出土遺物

●SK374

- <形状>一部のため不明  
 <長さ>9.14m  
 <幅>(1.04)m  
 <深さ>(0.70)m  
 <埋土>暗褐色砂質土  
 <主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶  
 器片、肥前磁器片。18世紀中頃。  
 <遺構の性格など>廃棄土坑

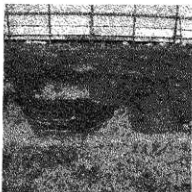


写真76 SK374(断面)

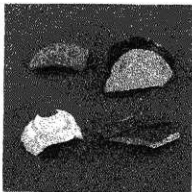


写真77 SK374出土遺物

●SK468

- <形状>不修楕円形  
 <長さ>2.69m  
 <幅>2.15m  
 <深さ>0.70m  
 <埋土>暗褐色砂質土  
 <主な出土遺物と時期>肥前染付磁器徳利、青磁  
 香炉、肥前系陶器碗、内耳鍋、土師皿など。18  
 世紀前半から中頃。  
 <遺構の性格など>廃棄土坑

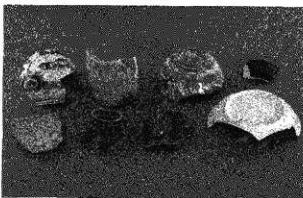


写真78 SK468出土遺物

●SK478

- <形状>切合いのため不明  
 <長さ>2.20m  
 <幅>(1.77)m  
 <深さ>0.31m  
 <埋土>暗褐色砂質土  
 <主な出土遺物と時期>平瓦? (寛政年のへら書あ  
 り)。18世紀末。  
 <遺構の性格など>廃棄土坑

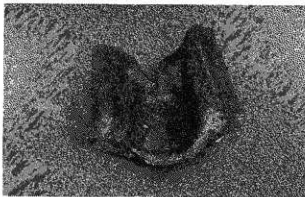


写真79 SK478出土遺物



●SK495

<形状>土坑群で不整形

<長さ>(16.70)m

<幅>8.30m

<深さ>2.14m

<埋土>暗褐色砂質土など

<主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器茶碗、瀬戸掃鉢、肥前三島手大鉢、現川焼碗、肥前磁器皿、常滑壺、焼塩壺、土師皿、軒丸瓦など。17世紀末～18世紀中頃。

<遺構の性格など>重複する廃棄土坑



写真80 SK495



写真81 SK495

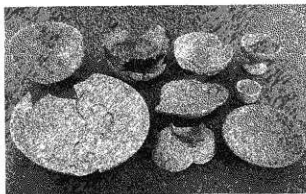


写真82 SK495出土遺物(瀬戸・美濃陶器)



写真83 SK495出土遺物(肥前系陶磁器)

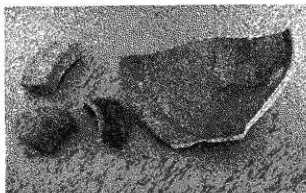


写真84 SK495出土遺物(壺・掃鉢)

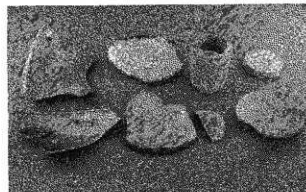


写真85 SK495出土遺物(土師質鍋、皿、焼塩壺)

●SK496

- <形状>楕円形  
 <長さ>3.32m  
 <幅>1.65m  
 <深さ>0.30m  
 <埋土>灰白色砂質土、暗褐色砂質土が混じる  
 <主な出土遺物と時期>京焼風陶器、肥前磁器土  
 絵付皿、土師皿、内耳鍋など。18世紀前半。  
 <遺構の性格など>廃棄土坑

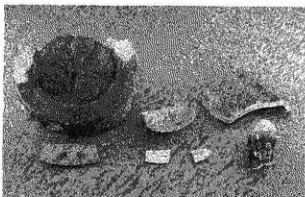


写真86 SK496出土遺物

●SK498

- <形状>不整楕円形  
 <長さ>3.08m  
 <幅>1.38m  
 <深さ>0.26m  
 <埋土>灰オリーブ色シルト  
 <主な出土遺物と時期>瀬戸搦鉢、肥前三島手大  
 鉢、瀬戸美濃陶器、土師皿など。18世紀前半。  
 <遺構の性格など>廃棄土坑

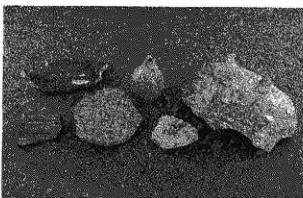


写真87 SK498出土遺物

●SK500

- <形状>不整方形  
 <長さ>8.80m  
 <幅>6.48m  
 <深さ>1.45m  
 <埋土>暗褐色砂質土  
 <主な出土遺物と時期>染付磁器広  
 東碗、瀬戸陶器馬の目皿、瀬戸美  
 濃刷毛目碗、徳利、土師皿、軒棧  
 瓦など。19世紀中頃。  
 <遺構の性格など>廃棄土坑

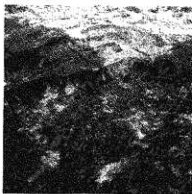


写真88 SK500(手前)

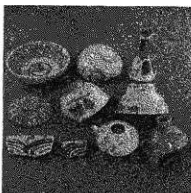


写真89 SK500出土遺物

●SK555

- <形状>方形群か  
 <長さ>(15.35)m  
 <幅>(7.59)m  
 <深さ>3m以上  
 <埋土>灰褐色砂質土など  
 <主な出土遺物と時期>肥前染付磁器小杯、瀬戸美濃陶器及耳壺?、ひょうそく、軒丸瓦(梅鉢紋)など。  
 18世紀中頃。  
 <遺構の性格など>不明、地下室(ちかむろ)状の1大遺構

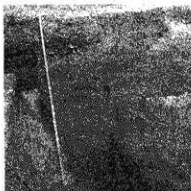


写真90 SK555



写真91 SK555出土遺物

●SK556

- <形状>隅丸方形か  
 <長さ>(1.77)m  
 <幅>1.57m  
 <深さ>0.72m  
 <埋土>にぶい黄褐色砂質土  
 <主な出土遺物と時期>常滑壺片。18世紀?  
 <遺構の性格など>廃棄土坑

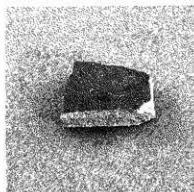


写真92 SK556出土遺物

●SK563

- <形状>不整形  
 <長さ>10.77m  
 <幅>4.23m  
 <深さ>1.37m  
 <埋土>暗褐色砂質土  
 <主な出土遺物と時期>瀬戸美濃陶器碗、馬の目皿、染付磁器碗、常滑壺、焼塀壺、軒丸瓦など。19世紀前半。  
 <遺構の性格など>地下室のち廃棄土坑か

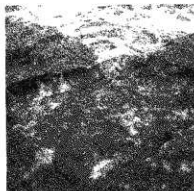


写真93 SK563

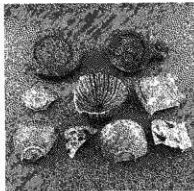


写真94 SK563出土遺物

●SK567

<形状>溝状

<長さ>(6.45)m

<幅>1.72m

<深さ>0.79m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>志野織部丸皿、瀬戸襦鉢、瀬戸美濃陶器碗など。17世紀中頃。

<遺構の性格など>不明



写真95 SK567

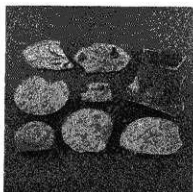


写真96 SK567出土遺物

●SK569

<形状>隅丸方形か

<長さ>(4.52)m

<幅>3.24m

<深さ>1.73m

<埋土>灰褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>染付磁器碗、瀬戸陶器馬の目皿、棧瓦など瓦多量(印銘あり)。19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑



写真97 SK569



写真98 SK569出土遺物(瓦印銘)

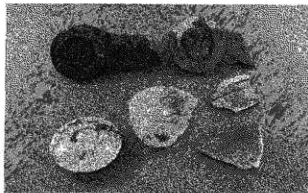


写真99 SK569出土遺物

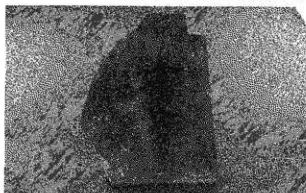


写真100 SK569出土遺物(同上)

●SK577

<形状>不整形円形か

<長さ>2.75m

<幅>(1.99)m

<深さ>(1.20)m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>染付磁器類

反碗、瀬戸美濃陶器水鉢、常滑甕、  
軒瓦など。19世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄土坑

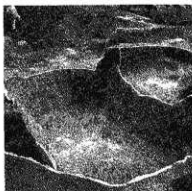


写真101 SK577(右端)

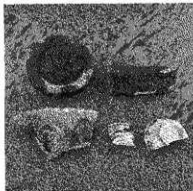


写真102 SK577出土遺物

G 井戸

●SE43

<形状>不整形円形

<長さ>1.30m

<幅>1.19m

<深さ>3.32m

<埋土>灰黄褐色砂質土。大レキ多い。

<主な出土遺物と時期>美濃陶器類

皿、志野丸皿、天目茶碗、鉄軸  
徳利、肥前磁器染付小杯、軒平  
瓦など。17世紀代。

<遺構の性格など>井戸

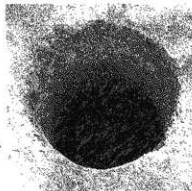


写真103 SE43



写真104 SE43出土遺物

●SE196

<形状>円形

<長さ>1.07m

<幅>0.98m

<深さ>3.55m

<埋土>暗褐色砂質土。灰白色土ブ  
ロックを含む。

<主な出土遺物と時期>志野丸皿、

瀬戸美濃陶器碗、瀬戸播鉢など。  
17世紀中頃。

<遺構の性格など>井戸

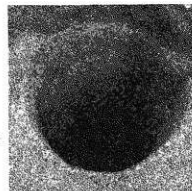


写真105 SE196

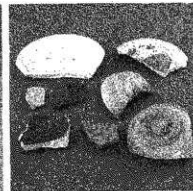


写真106 SE196出土遺物

●SE243

<形状>円形

<長さ>1.21m

<幅>1.15m

<深さ>(3.94)m

<埋土>暗褐色砂質土

<主な出土遺物と時期>織部向付、

絵志野向付、瀬戸美濃天日茶碗、

唐津香炉、溜鉢、焼塚壺、内耳鍋、

土師皿、火打石など。17世紀前半か。



写真107 SE243

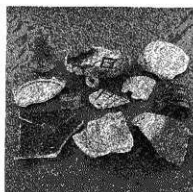


写真108 SE243出土遺物

<遺構の性格など>井戸

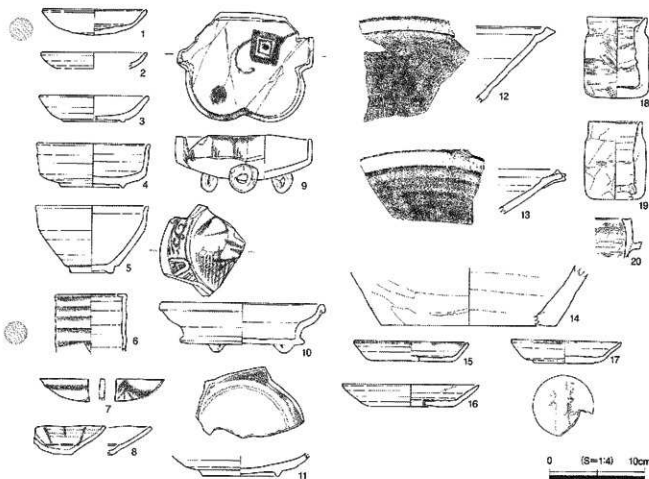


図22 SE243出土遺物

表7 SE243掘遺物一覽

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	陶器	磁器蓋	17世紀前半	11	陶器	浅鉢皿	17世紀後半、瀬戸美濃
2	陶器	煎茶鉢	17世紀、瀬戸美濃	12	陶器	溜鉢	17世紀、瀬戸美濃
3	内巻	焼石煎鉢	17世紀前半、瀬戸美濃	13	陶器	焼塚	17世紀、瀬戸美濃
4	灰砂	灰砂埋向付	17世紀前半、瀬戸美濃	14	陶器	内耳鍋	17世紀、瀬戸美濃
5	陶器	天目茶碗	17世紀、瀬戸美濃	15	陶器	茶碗	17世紀、瀬戸美濃
6	陶器	真鍮茶巾	17世紀、瀬戸美濃	16	陶器	茶碗	17世紀、瀬戸美濃
7	陶器	真鍮向付	17世紀前半、瀬戸美濃	17	陶器	茶碗	17世紀、瀬戸美濃
8	陶器	真鍮蓋	17世紀前半、瀬戸美濃	18	陶器	茶碗	17世紀、瀬戸美濃
9	内巻	煎茶向付	17世紀前半、瀬戸美濃	19	陶器	茶碗	17世紀、瀬戸美濃
10	内巻	煎茶向付	17世紀前半、瀬戸美濃	20	陶器	茶碗	17世紀、瀬戸美濃

●SE285

<形状>不整形(井筒は円形)

<長さ>2.55m

<幅>1.96m

<深さ>(4.06)m

<埋土>におい黄褐色砂質土、下層は黄褐色砂質土。

<主な出土遺物と時期>肥前染付磁器小杯、皿、瀬戸美濃陶器碗、徳利、瀬戸播鉢、焼塩壺(多数)など。18世紀代。

<遺構の性格など>井戸

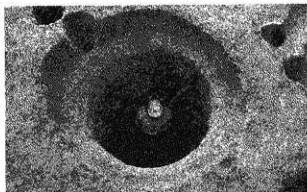


写真109 SE285



写真110 SE285出土遺物

●SE645

<形状>円形

<長さ>0.93m

<幅>(0.85)m

<深さ>2.98m

<埋土>灰黄褐色中粒砂

<主な出土遺物と時期>染付磁器小杯、磁器上絵付碗、瀬戸美濃陶器碗、瓦片など。17世紀後半か。

<遺構の性格など>井戸

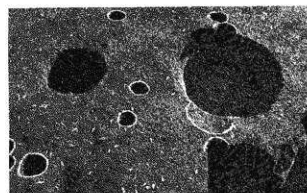


写真111 SE645(右手前)

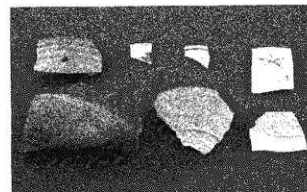


写真112 SE645出土遺物

### ③ 中世の概要

#### A 溝状遺構

調査区北西部には、14～15世紀頃の陶器片が出土した縄辺約20m、長辺30m程の長方形に区画すると思われる溝が検出された。溝は断面が浅いU字形で防衛性はあまり高くない形状であると思われる(SD866・930)。この時代の遺構はあまり多くなく、16世紀にはいった堀や溝が良好に検出されている。

今回の調査区で最も規模の大きな遺構がSD701である。この遺構(堀)は、幅約5m、深さ3m程の薬研堀で、東西に45m程の直線状で検出された。この堀は東側に隣接する土地である合同庁舎の調査地点(1988年)でも検出されていて、この堀と同一の遺構である。これらを含めると70m以上の延長があり、その位置と規模などから那古野城の外郭を成す堀の可能性が高い。

そして、このSD701を切って造られている南北方向の溝(断面が逆台形状の箱堀)のSD893があり、この溝とつながり、方形区画を構える箱堀の溝SD895、SD998、SD894(薬研に掘り直している)とこれに続く薬研堀のSD1230が検出されている。埋土上層では、16世紀末から17世紀初頭の大窯第4段階に相当する陶器が出土している。

#### B 土坑

土坑の検出数は比較的少なく、堀や溝の埋土内に位置することもあまりなかった。埋土からは陶器片が少し出土するものがほとんどで、廃棄土坑か他の機能をもった遺構かは明確ではない。

#### C 井戸

井戸は、2基をSD894・1230(東西方向の細い薬研堀)の遺構内で検出した。SE1347は、この溝の壁で検出された。埋土からは壺、壺片が多く出土している。この井戸の西側で検出されたSE1393は、この薬研堀の溝が半分ほど埋まった頃に、その埋土を掘って造られている状況であった。

#### D 建物跡など(ピット)

小規模なピットが調査区のはほぼ全域に分布し、中世～戦国期の大小の建物等存在した痕跡と思われるが、現在のところ詳細は不明である。

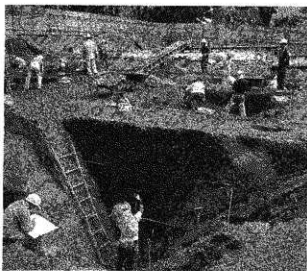


写真113 調査状況(SD701)



写真114 調査状況(SD701)



A 溝状遺構

●SD866・930

<形状>隅丸方形の溝

<長さ>(14.21)m、(17.74)m

<幅>1.26~1.80m

<深さ>0.22~0.32m

<埋土>黒褐色土

<主な出土遺物と時期>山茶碗(北部系)、古瀬戸灰釉碗、鉄軸碗、小皿、古瀬戸四耳壺、折縁深皿、御皿、常滑壺、羽釜など。14~15世紀。

<遺構の性格など>厩館等に伴う溝か。



写真115 SD866(手前)

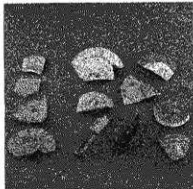


写真116 SD866出土遺物

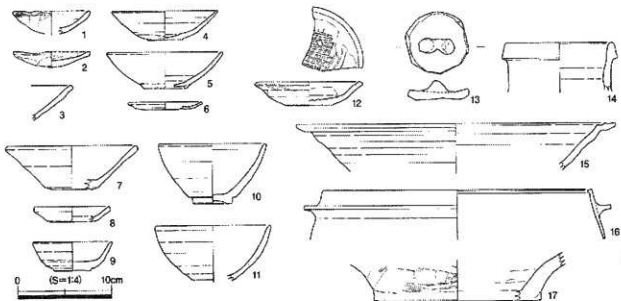


図23 SD866・930出土遺物

表B SD866・930掲載遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	皿	手づくぬ碗形、浅瀬戸系	10	灰器	灰目茶碗	14世紀、15世紀
2	土師器	皿	手づくぬ碗形	11	陶器	天目茶碗	茶碗、14世紀
3	陶器	平碗	灰目、15世紀	12	内器	茶碗	茶碗、14世紀
4	陶器	山茶碗	14世紀、北部系	13	陶器	福足(白磁)	洗物
5	内器	白磁碗	14世紀、北部系	14	陶器	四耳壺	灰目、15世紀
6	陶器	白灰釉小皿	15世紀、北部系	15	陶器	折縁深皿	灰目、15世紀
7	海部	山部碗	14世紀、南部系	16	土師器	御膳箱	
8	海部	山茶碗(小皿)	14世紀、南部系	17	埴輪陶器	瓦	常滑系
9	陶器	小杯	灰目、14世紀				

●SX700

<形状>短い溝の複合

<長さ>(19.71)m

<幅>3.56m

<深さ>0.91m

<畑土>黒褐色土

<主な出土遺物と時期>山茶碗、古瀬戸皿、灰釉碗、柄付片皿、鐺鉢、常滑甕、羽釜など。13～15世紀前半。

<遺構の性格など>不明。

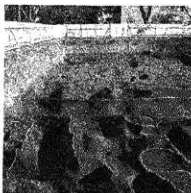


写真117 SX700

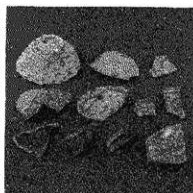


写真118 SX700出土遺物

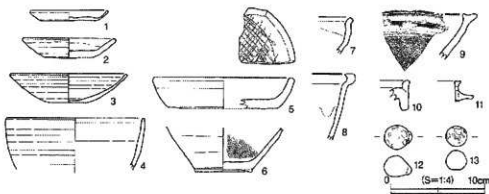


図24 SX700出土遺物

表9 SX700掘出遺物一覽

遺物番号	種類	遺物名	時期・中継地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・中継地・特徴など
1	円形	山茶碗(小)	北朝系, 15世紀	8	灰釉	柄付片皿	古瀬戸, 14～15世紀
2	碗形	灰釉小皿	古瀬戸, 15世紀	9	陶器	鐺鉢	15世紀前半
3	碗形	止寄碗	北朝系, 15世紀	10	灰釉陶器	常滑	常滑系, 14世紀後半
4	碗形	灰釉碗	内瀬戸, 14～15世紀	11	土製瓦	釘付瓦	14世紀後半
5	陶器	茶碗	古瀬戸, 15世紀	12	円形	陶片	15世紀前半
6	円形	山茶碗	内瀬戸, 15世紀	13	陶器	羽釜	15世紀前半
7	陶器	赤	古瀬戸, 15世紀				

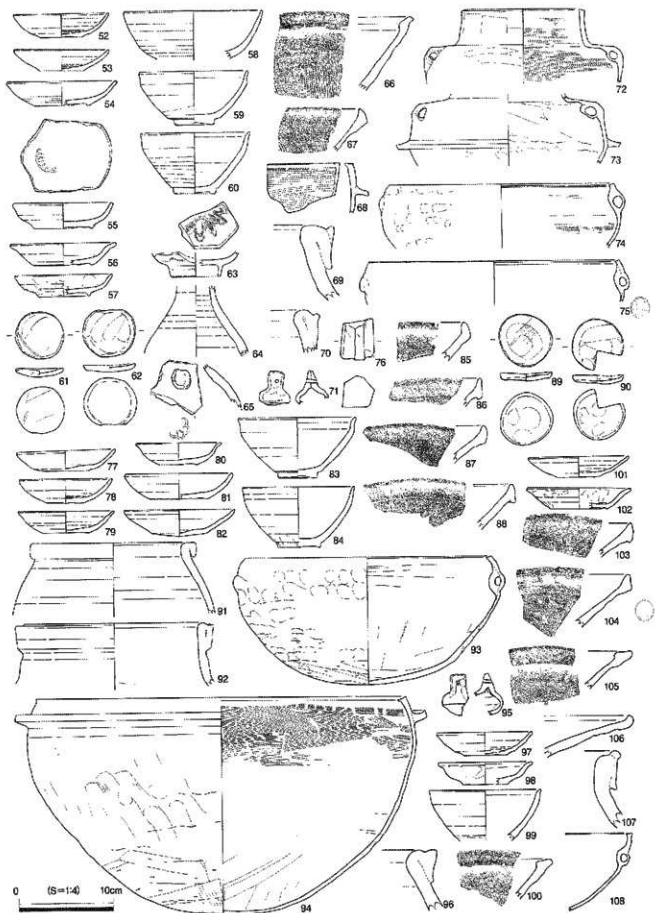


图26 SD701出土遺物(2)

表10 SD701英販船舶の一覧

造船番号	船名	造船者	時期・生産地・噸数など	造船番号	船名	造船者	時期・生産地・噸数など
1	英船	丸屋	英船,1・2噸以上	55	英船	丸屋	
2	英船	丸屋	英船,1・2噸以上	56	英船	信託	英船,3・4噸以上
3	海船	丸屋茶屋	英船,1・2噸以上	57	海船	丸屋	英船,3・4噸以上
4	十噸船	小坂	手づくね,1・2噸以上	58	海船	丸	英船,3・4噸以上
5	海船	源兵衛	1・2噸以上	59	海船	丸屋茶屋	英船,3・4噸以上
6	英船	船主	1・2噸以上	60	英船	丸屋茶屋	英船,3・4噸以上
7	英船	船主	1・2噸以上	61	十噸船	小坂	手づくね,3・4噸以上
8	海船	源兵衛	2噸以上	62	土船	小坂	手づくね,3・4噸以上
9	海船	源兵衛	2噸以上	63	英船	信託	中国産,3・4噸以上
10	海船	源兵衛	英船,2噸以上	64	海船	丸	英船,3・4噸以上
11	英船	丸屋	英船,2噸以上	65	英船	河村吉盛	英船,3・4噸以上
12	英船	丸屋	英船,2噸以上	66	英船	源兵衛	3・4噸以上
13	海船	丸屋	英船,2噸以上	67	海船	信託	3・4噸以上
14	海船	丸	英船,2噸以上	68	土船	源兵衛	3・4噸以上
15	海船	丸屋茶屋	英船,2噸以上	69	英船	源兵衛	3・4噸以上
16	英船	丸屋茶屋	英船,2噸以上	70	英船	源兵衛	3・4噸以上
17	海船	丸屋茶屋	英船,2噸以上	71	十噸船	土船	3・4噸以上
18	土船	丸	2噸以上	72	土船	丸	3・4噸以上
19	土船	小坂	手づくね,2噸以上	73	土船	丸	3・4噸以上
20	土船	小坂	手づくね,2噸以上	74	土船	丸	3・4噸以上
21	土船	小坂	手づくね,2噸以上	75	土船	丸	3・4噸以上
22	海船	船主	2噸以上	76	土船	丸	3・4噸以上
23	海船	丸	英船,2噸以上	77	土船	丸	3・4噸以上
24	土船	丸	2噸以上	78	海船	丸	4噸以上
25	土船	丸	2噸以上	79	海船	丸	4噸以上
26	土船	丸	2噸以上	80	海船	丸	英船,4噸以上
27	英船	丸	2噸以上	81	海船	丸	英船,4噸以上
28	海船	丸	英船,3噸以上	82	海船	丸	英船,4噸以上
29	海船	丸	英船,3噸以上	83	海船	丸	英船,4噸以上
30	海船	丸	英船,3噸以上	84	海船	丸	英船,4噸以上
31	海船	丸	英船,3噸以上	85	海船	丸	英船,4噸以上
32	海船	丸	英船,3噸以上	86	海船	丸	英船,4噸以上
33	海船	丸	英船,3噸以上	87	海船	丸	英船,4噸以上
34	海船	丸	英船,3噸以上	88	海船	丸	英船,4噸以上
35	海船	丸	英船,3噸以上	89	土船	小坂	手づくね,4噸以上
36	海船	丸	英船,3噸以上	90	土船	小坂	手づくね,4噸以上
37	土船	小坂	手づくね,3噸以上	91	海船	丸	英船,4噸以上
38	土船	小坂	手づくね,3噸以上	92	海船	丸	英船,4噸以上
39	土船	小坂	3噸以上	93	土船	丸	4噸以上
40	土船	小坂	3噸以上	94	土船	丸	3噸以上
41	海船	丸	3噸以上	95	土船	丸	3噸以上
42	海船	丸	英船,3噸以上	96	海船	丸	英船,4噸以上
43	海船	丸	英船,3噸以上	97	海船	丸	英船,4噸以上
44	海船	丸	英船,3噸以上	98	海船	丸	英船,4噸以上
45	海船	丸	英船,3噸以上	99	海船	丸	英船,4噸以上
46	海船	丸	英船,3噸以上	100	海船	丸	英船,4噸以上
47	土船	小坂	3噸以上	101	海船	丸	英船,4噸以上
48	土船	小坂	3噸以上	102	海船	丸	英船,4噸以上
49	土船	小坂	3噸以上	103	海船	丸	英船,4噸以上
50	土船	小坂	3噸以上	104	海船	丸	英船,4噸以上
51	土船	小坂	3噸以上	105	海船	丸	英船,4噸以上
52	海船	丸	3・4噸以上	106	海船	丸	英船,4噸以上
53	海船	丸	3・4噸以上	107	海船	丸	英船,4噸以上
54	海船	丸	英船,3・4噸以上	108	土船	小坂	3・4噸以上

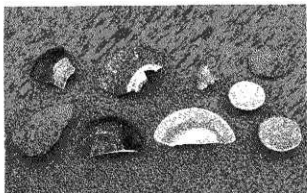


写真125 SD701(A区2層)出土遺物

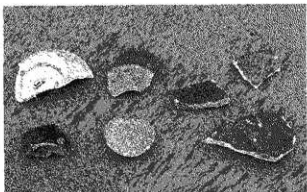


写真126 SD701(B区1・2層)

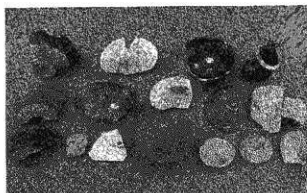


写真127 SD701(A区3層)出土遺物

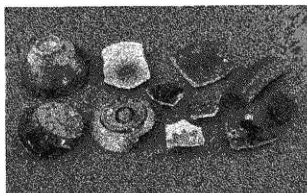


写真128 SD701(B区3・4層)出土遺物

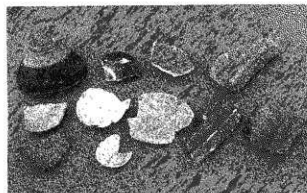


写真129 SD701(A区4層)出土遺物



写真130 SD701(B区3・4層)出土遺物



写真131 SD701(A区5・6層)出土遺物



写真132 SD701(B区5・6・7層)出土遺物

●SD893

<形状>直線とコーナー

<長さ>(31.82) m

<幅>2.19m

<深さ>1.37m

<埴土>暗褐色上など

<主な出土遺物と時期>天目茶碗、皿、香炉、土鍋、  
上師皿など。16世紀中頃～16世紀末頃。

<遺構の性格など>家内団屋敷の一角か



写真133 SD893遺物出土状況

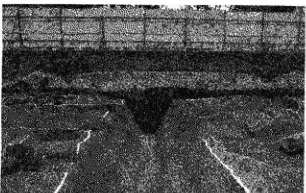


写真134 SD893

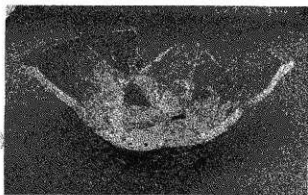


写真135 SD893(1層)出土遺物

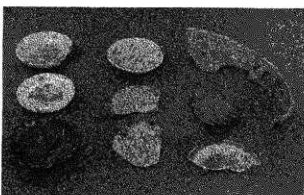


写真136 SD893(1層)出土遺物

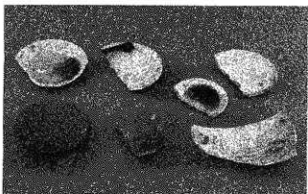


写真137 SD893(2層)出土遺物

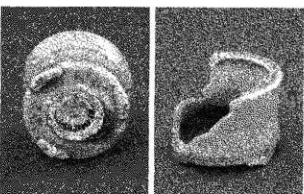


写真138 SD893(2層)出土遺物 (同左)

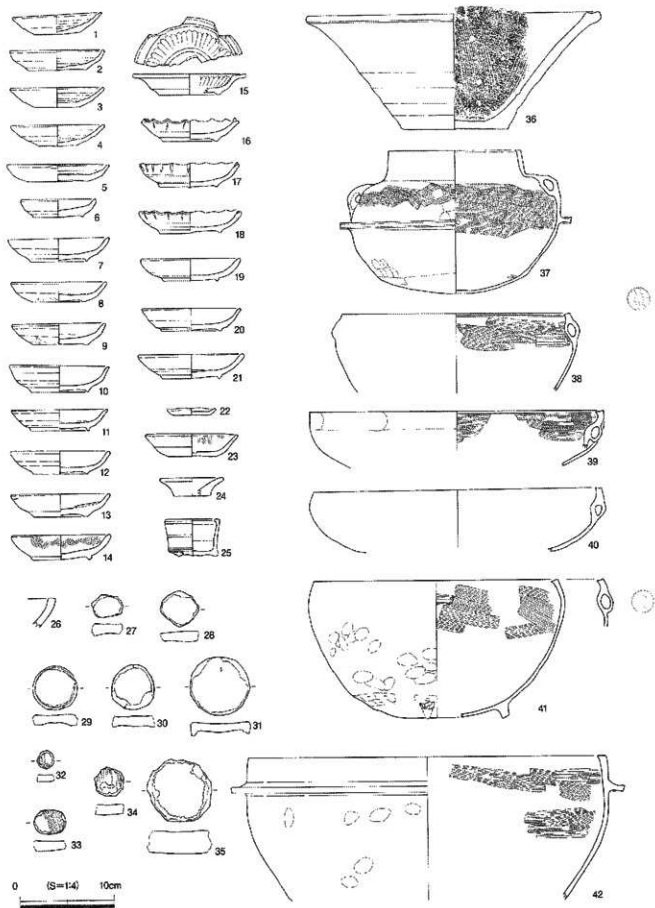


图27 SD893出土遗物

表11 SD893発掘遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・発掘地・収蔵など	遺物番号	種類	遺物名	時期・発掘地・特徴など
1	陶器	葉形皿	16世紀	20	土師瓦	小皿	
2	陶器	点線皿	16世紀	21	土師瓦	蓋	浅瀬谷遺跡、5(5)出土
3	陶器	点線皿	16世紀	24	陶器	小洋小	鉄箱
4	陶器	葉形皿	16世紀	25	陶器	香炉	灰箱
5	陶器	点線皿	16世紀	26	陶器	鉢	瀬谷遺跡?
6	陶器	灰箱皿	16世紀	27	陶器	加工円盤	
7	陶器	灰箱皿	16世紀	28	陶器	加工円盤	
8	陶器	灰箱皿	16世紀	29	陶器	加工円盤	
9	陶器	灰箱皿	16世紀	30	陶器	加工円盤	
10	陶器	灰箱皿	16世紀	31	陶器	加工円盤	
11	陶器	灰箱皿	16世紀	32	陶器	加工円盤	
12	陶器	灰箱皿	16世紀	33	陶器	加工円盤	
13	陶器	灰箱皿	16世紀	34	陶器	加工円盤	
14	陶器	灰箱皿	16世紀	35	瓦	加工円盤	
15	陶器	羽形皿	灰箱、16世紀	36	陶器	磁鉢	15期、17世紀遺物
16	陶器	磁鉢	灰箱、16世紀	37	土師瓦	羽形皿	16世紀
17	陶器	磁鉢	灰箱、16世紀	38	土師瓦	内耳皿	16世紀
18	陶器	磁鉢	灰箱、16世紀	39	土師瓦	内耳皿	16世紀
19	陶器	丸皿	灰石皿	40	土師瓦	内耳皿	16世紀
20	陶器	丸皿	灰石皿	41	土師瓦	内耳皿	16世紀
21	陶器	丸皿	灰石皿	42	土師瓦	羽形皿	16世紀



●SD895

<形状>直線状。結合部あり。

<長さ>(20.35)m

<幅>1.61m

<深さ>1.14m

<埋土>暗褐色土。

<主な出土遺物と時期>搦鉢、常滑甕、灰釉皿、土師皿、土師質手づくね小皿など。16世紀後半頃。

<遺構の性格など>家臣団屋敷の一角か



写真139 SD895

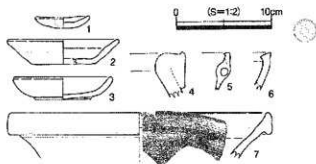


図28 SD895出土遺物

表12 SD895掘産遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	手皿	小ノ丸丸底形
2	上野砂	玉	丸ノ丸底形
3	陶器	皿	灰釉平皿
4	焼結陶器	甕	常滑産
5	土師器	六耳鉢	
6	陶器	鉢	灰釉
7	陶器	刀拵	16世紀

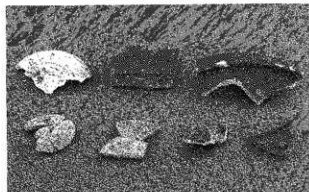


写真140 SD895出土遺物

●SD894・1230

<形状>直線状。結合部あり。

<長さ>(25.03)m

<幅>2.00~2.60m

<深さ>1.97~2.17

<掘土>暗褐色土など

<主な出土遺物と時期>播鉢、志野丸皿、天目茶碗、内耳鍋、上師質手づくね小皿、五輪塔、石臼など。16世紀末~17世紀初頭。

<遺構の性格など>家臣団屋敷の一角か



写真141 SD894



写真142 SD894(SD893との結合部)



写真143 SD1230

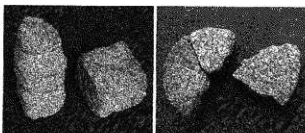


写真144 SD1230出土遺物(五輪塔) 写真145 SD1230出土遺物(石臼)

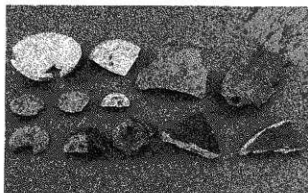


写真146 SD1230出土遺物

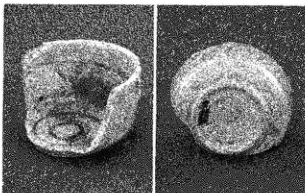


写真147 SD1230内SK1342出土遺物 写真148 (同左)

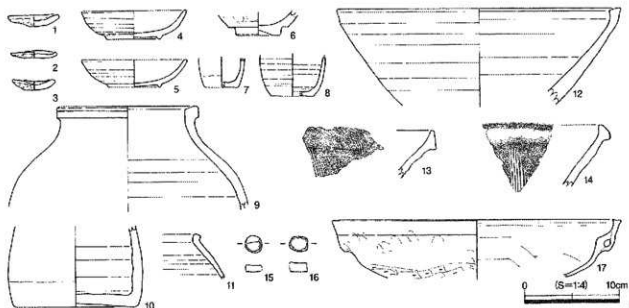


図29 SD894・1230出土遺物

表13 SD894・1230発掘遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	小皿	手づくね成形	10	陶器	甕小	鉄鍔
2	土師器	小皿	手づくね成形	11	陶器	甕	鉄鍔
3	土師器	小皿	手づくね成形	12	鉄器	鏃	鉄鍔
4	陶器	皿	灰石釉	13	陶器	椀鉢	鉄鍔
5	陶器	甕	灰石釉	14	陶器	椀鉢	鉄鍔
6	陶器	大目茶碗	鉄鍔	15	陶器	加工円盤	磁鉄片
7	陶器	茶入鉢	鉄鍔	16	陶器	加工円盤	磁鉄片
8	陶器	茶入鉢	鉄鍔	17	土師器	内耳碗	
9	陶器	甕	鉄鍔				

●SD992

<形状>逆L字形

<長さ>9.60m

<幅>0.36~1.15m

<深さ>0.10~0.65m

<埋土>暗褐色土

<主な出土遺物と時期>山茶碗、椀鉢、土師質手づくね小皿など、15世紀中頃。

<遺構の性格など>不明

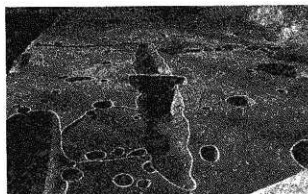


写真149 SD992

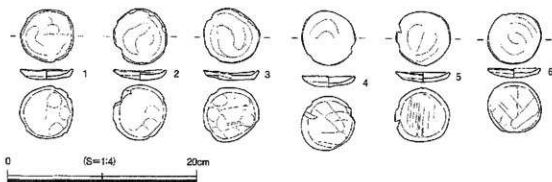


図30 SD992出土遺物

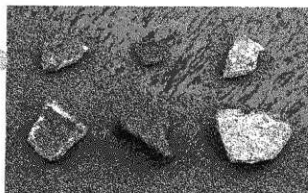


写真150 SD992出土遺物

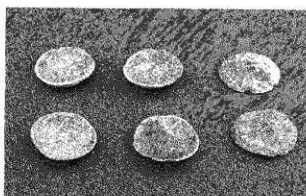


写真151 SD992出土遺物

表14 SD992埋蔵遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・年代層・特徴など
1	土師器	小皿	手づくね成形
2	土師器	小皿	手づくね成形
3	土師器	小皿	手づくね成形
4	土師器	小皿	手づくね成形
5	土師器	小皿	手づくね成形
6	土師器	小皿	手づくね成形

●SD993

<形状>細い直線状

<長さ>(23.15)m

<幅>0.25~0.50m

<深さ>0.10~0.43m

<埋土>暗褐色土

<主な出土遺物と時期>山茶碗、灰鞋鉢、播鉢など。

15世紀か。

<遺構の性格など>区画溝？



写真152 SD993

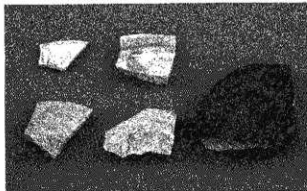


写真153 SD933出土遺物

B 土坑

●SK855

<形状>楕円形

<長さ>1.95m

<幅>1.50m

<深さ>0.15m

<埋上>黒褐色シルト。礫状に地山含む。

<主な出土遺物と時期>遺物なし。

<遺構の性格など>不明

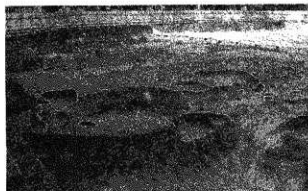


写真154 SK855など

●SK857

<形状>隅丸方形

<長さ>2.83m

<幅>2.59m

<深さ>0.33m

<埋上>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>撞鉢、天目茶碗、鉄鉢皿、  
常滑壺など。16世紀中頃。

<遺構の性格など>不明



写真155 SK857

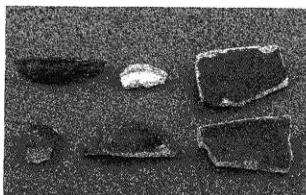


写真156 SK857出土遺物

●SK878

<形状>楕円形か

<長さ>(1.91)m

<幅>1.43m

<高さ>0.49m

<土質>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>天目茶碗、播鉢、16世紀前半～中頃。

<遺構の性格など>不明

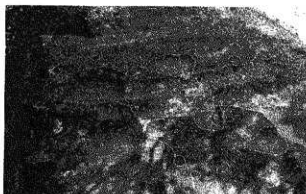


写真157 SK878(中央手前)

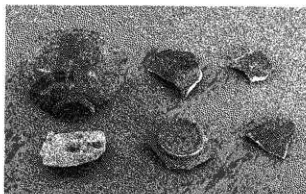


写真158 SK878出土遺物

●SK880

<形状>楕円形か

<長さ>(6.75)m

<幅>3.47m

<高さ>1.01m

<土質>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>播鉢、天目茶碗、長石鉢碗、灰軸小屋、常滑甕、内耳鍋、瓦片など。16世紀末頃。

<遺構の性格など>不明

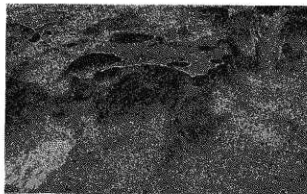


写真159 SK880(手前)

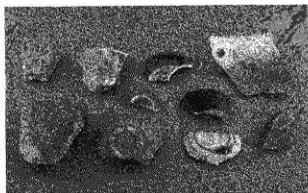


写真160 SK880出土遺物

●SK882

<形状>不整楕円形

<長さ>5.69m

<幅>4.22m

<深さ>1.05m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>山茶碗、播鉢、古瀬戸直縁大皿、古瀬戸折縁深皿、鉄鞋上釜、土師皿、上釜など。

15世紀中頃。

<遺構の性格など>廃棄上坑か



写真161 SK882

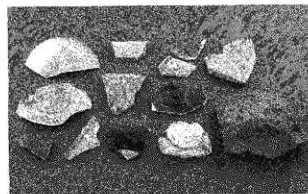


写真162 SK882出土遺物

●SK907

<形状>隅丸方形

<長さ>1.65m

<幅>1.34m

<深さ>0.37m

<埋土>黒褐色粘質土

<主な出土遺物と時期>山茶碗、灰釉平碗、播鉢など。15世紀中頃か。

<遺構の性格など>不明

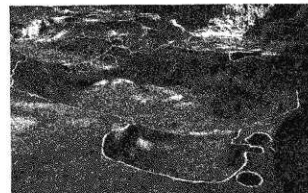


写真163 SK907(手前)

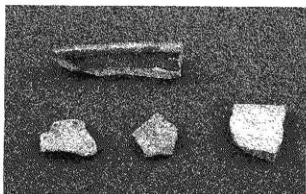


写真164 SK907出土遺物

●SK994

<形状>隅丸長方形

<長さ>4.19m

<幅>1.60m

<深さ>0.64m

<風土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>天目茶碗、鉄箱小皿、播鉢、土師皿など。16世紀末頃。

<遺構の性格など>不明

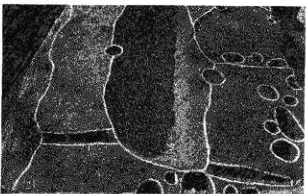


写真165 SK994

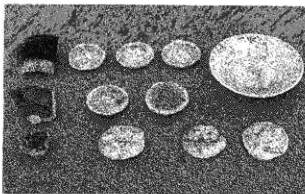


写真166 SK994出土遺物

●SK1002

<形状>楕円形

<長さ>4.76m

<幅>2.88m

<深さ>0.52m

<風土>黒褐色シルト。巨礫1点。

<主な出土遺物と時期>灰釉平碗、播鉢、土釜など。15世紀。

<遺構の性格など>不明

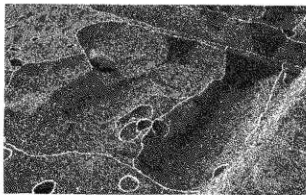


写真167 SK1002



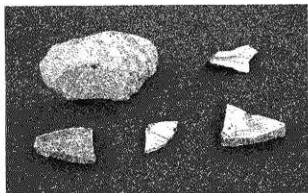


写真168 SK1002出土遺物.eps

C 井戸

●SE1347

<形状>円形

<長さ>1.11m

<幅>1.05m

<深さ>2.83m

<埋土>黒褐色シルトなど

<主な出土遺物と時期>播鉢、灰軸丸皿、鉄軸皿、  
鉄軸耳付壺、鉄軸壺、常滑甕など。16世紀中頃。

<遺構の性格など>井戸。SD1230に切られる。

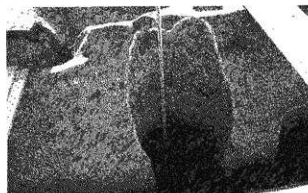


写真169 SE1347

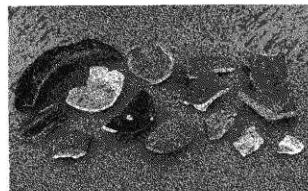


写真170 SE1347出土遺物



写真171 SE1347出土遺物

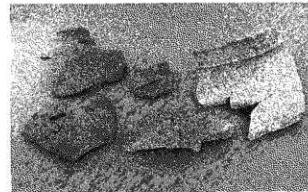


写真172 SE1347出土遺物

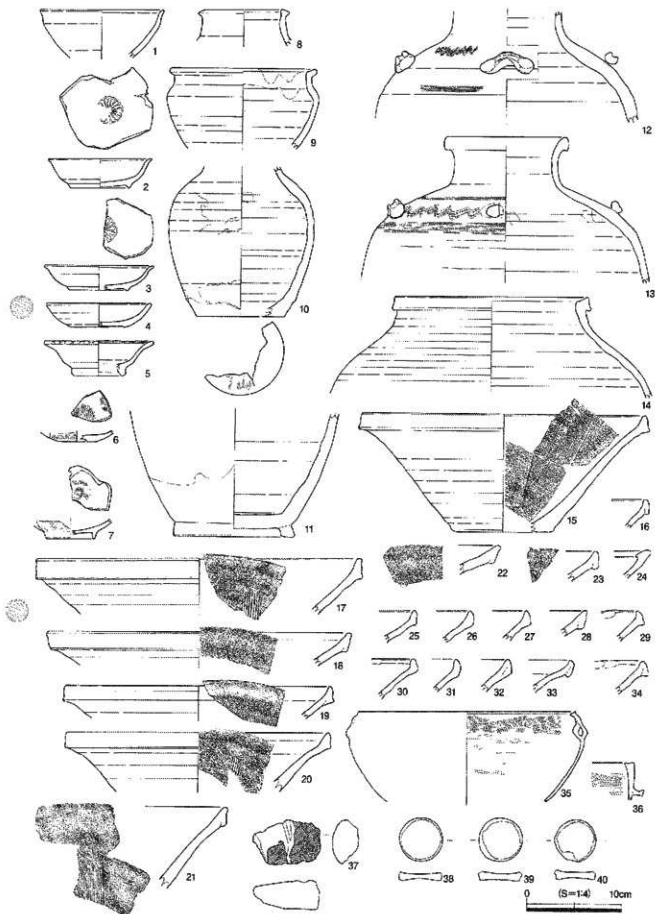


图31 SE1347出土遗物(1)

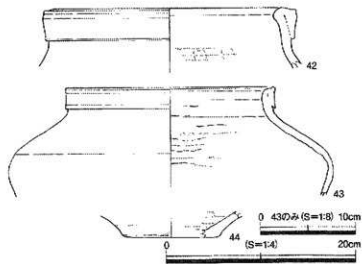
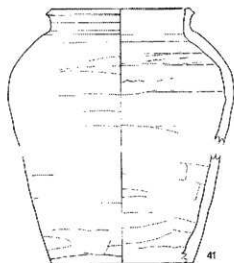


图32 SE1347出土遺物(2)

表15 SE1347埋藏遺物一覧

遺物番号・種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号・種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	
1	陶器	天目茶碗	鉄動	23	陶器	楕円鉢
2	陶器	丸皿	板白	24	陶器	楕円鉢
3	陶器	丸皿	灰青	25	陶器	七許
4	陶器	丸皿	鉄動	26	陶器	楕円鉢
5	陶器	古瀬戸灰皿	中田系	27	陶器	楕円鉢
6	陶器	青灰皿	中田系	28	陶器	楕円鉢
7	陶器	青花碗	中田系	29	陶器	楕円鉢
8	陶器	皿	鉄動	30	陶器	楕円鉢
9	陶器	皿	鉄動	31	陶器	楕円鉢
10	陶器	皿	鉄動	32	陶器	楕円鉢
11	陶器	皿	鉄動	33	陶器	楕円鉢
12	陶器	四耳瓶	鉄動	34	陶器	楕円鉢
13	陶器	四耳瓶	鉄動	35	土器	内耳瓶
14	陶器	皿	鉄動	36	土器	羽根皿
15	陶器	楕円鉢		37	土製品	糸口・工出口
16	陶器	楕円鉢		38	陶器	楕円鉢
17	陶器	楕円鉢		39	陶器	楕円鉢
18	陶器	楕円鉢		40	陶器	加工片断
19	陶器	楕円鉢		41	洗淨陶器	茶
20	陶器	楕円鉢		42	洗淨陶器	茶
21	陶器	楕円鉢		43	洗淨陶器	茶
22	陶器	楕円鉢		44	洗淨陶器	茶

●SE1393

<形状>円形

<長さ>1.18m

<幅>1.07m

<深さ>2.63m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>播鉢、中国白磁小杯、白磁丸皿、鉄鞋小皿、小天目茶碗、土師皿。16世紀中頃。

<遺構の性格など>井戸。SD1230下半埋土を切る。

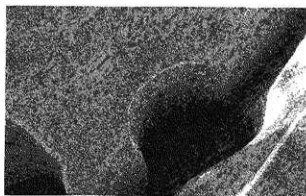


写真173 SE1393

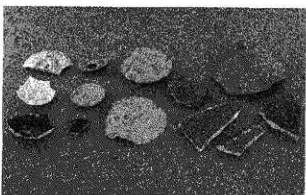


写真174 SE1393出土遺物

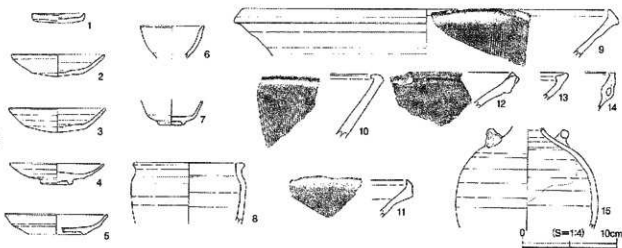


図33 SE1393出土遺物

表16 SE1393発掘遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	材質・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	材質・生産地・特徴など
1	土師器	小皿	手づくね成系	9	陶器	播鉢	
2	土師器	皿	ろくろ成形	10	陶器	播鉢	
3	土師器	鉢	ろくろ成形	11	陶器	播鉢	
4	磁器	白磁小杯	中国産	12	陶器	播鉢	
5	陶器	丸皿	鉄胎	13	陶器	播鉢	
6	陶器	小天目茶碗	鉄胎	14	土師器	土師皿	
7	陶器	白磁小杯	中国産	15	陶器	耳付皿	鉄胎
8	陶器	筒型土師器	鉄胎				

#### ④ 古代の概要

##### A 竪穴住居跡

調査区の南東部に竪穴住居跡の遺構が3棟検出された。このうちSB1000は、全体の形状が比較的良好的な状態であり、8世紀頃の須恵器、土師器が出土した。また、各遺構とも床面近くまで遺構の上部が失われていた。

##### B ビット

調査区南東部の竪穴住居跡が検出されたあたりに分布するビットのなかには、古代の柱穴等が含まれているとおもわれるが、中世～古代の遺構の時期の特定が困難である。

##### A 竪穴住居跡

###### ●SB1000

<形状>隅丸長方形

<長さ>5.22m

<幅>3.68m

<深さ>0.27m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>須恵器、土師器類、8世紀頃。

<遺構の性格など>竪穴住居

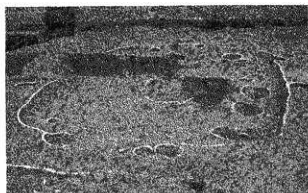


写真175 SB1000



写真176 SB1000出土遺物

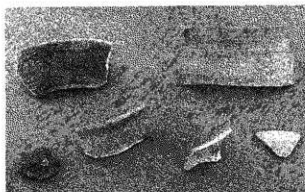


写真177 SB1000内SK1396出土遺物

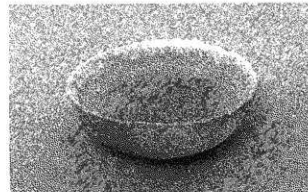


写真178 SB1000内SK1404出土遺物

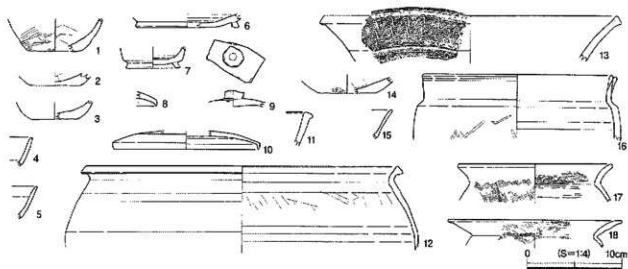


図34 SB1000,SK1396(SB1000内)出土遺物

表17 SB1000埋藏遺物一覧

遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など	遺物番号	種類	遺物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	片		10	須恵器	杯	
2	土師器	兜		11	須恵器	杯	
3	土師器	蓋		12	須恵器	甕	
4	須恵器	杯		13	須恵器	甕	SK1390
5	須恵器	片		14	土師器	蓋	SK1396
6	須恵器	杯		15	須恵器	杯	SK1396
7	須恵器	杯		16	須恵器	須恵器	SK1396
8	須恵器	杯		17	土師器	甕	SK1396
9	須恵器	片		18	土師器	片	SK1396

●SK(SB)1001

<形状>隅丸長方形か

<長さ>3.41m

<幅>(3.38)m

<深さ>0.11m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>須恵器片。8

世紀頃。

<遺構の性格など>竪穴住居

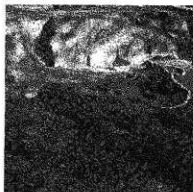


写真179 SK(SB)1001

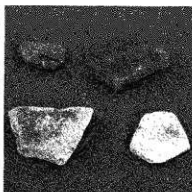


写真180 SK(SB)1001出土遺物

●SB1273

<形状>隅丸長方形か

<長さ>(3.91)m

<幅>(3.10)m

<深さ>0.18m

<埋土>黒褐色シルト

<主な出土遺物と時期>須恵器片、土師器片。8世紀頃。

<遺構の性格など>竪穴住居か



写真181 SB1273

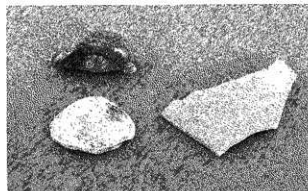


写真182 SB1273出土遺物

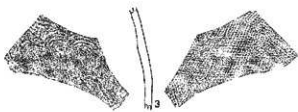
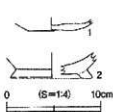


図35 SB1273出土遺物

表18 SB1273埋藏遺物一覧

遺物番号	種類	器物名	時期・生産地・特徴など
1	土師器	甕	
2	須恵器	壺	
3	須恵器	尖	
4	須恵器	杯	SK1404(SH1004)部上
5	須恵器	杯	SK1109出土



図36 4.SK1404  
5.SK1109  
出土遺物

⑤ 古代以前の概要

調査中に近世や中世の遺構出土から、黒曜石片、磨製石斧、埴輪片などがわずかに出土しているが、これらの時期の包含層や遺構は検出されなかった。当遺跡では、旧石器、縄文時代は遺物のみであるが、弥生時代中期や古墳時代後期の壘穴住居跡や古墳周溝、古代の竪穴住居跡などが台地西側付近や台地北縁部で検出されている。

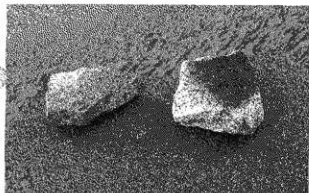


写真183 古代瓦(左: SD03,右: SK880)

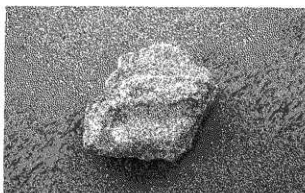


写真184 埴輪片(検出)



写真185 磨製石斧(SK880)

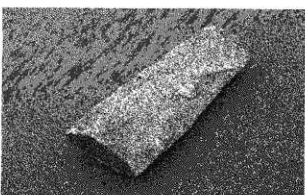


写真186 打製石斧(SK880)

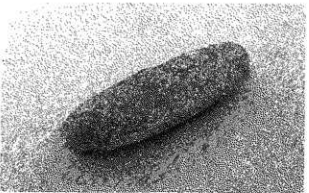


写真187 磨製石斧(SD893)

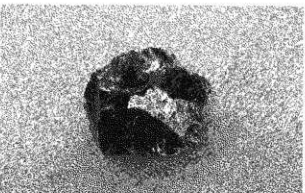


写真188 黒曜石片(B1区検出)



## 4 自然科学的分析

### 名古屋城三の丸遺跡出土の人骨

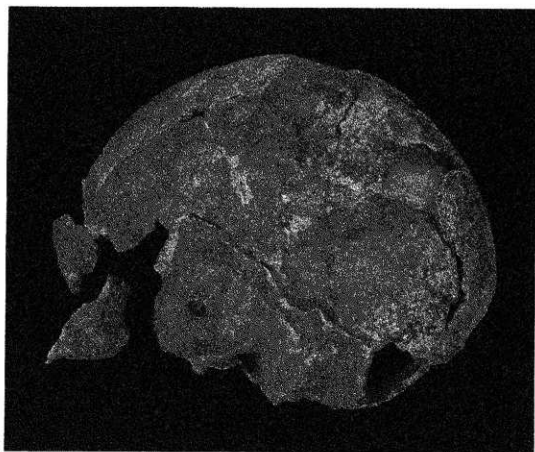
名古屋大学博物館 新美倫子

名古屋城三の丸遺跡ではヒトの頭蓋骨が1点出土した。この資料は、戦国時代(16世紀)に作られた溝SD0701が埋没する過程で、その埋上を掘り込んで作られた土坑SK1453の中から検出され、所属時期は戦国時代(16世紀)と思われる。

頭蓋骨は左側面を下にした状態で埋まっていた。溝の更新を目的として溝内に堆積した埋土が除去された際に、右側が削り取られたとのことであり(出土状況写真123)、残存していたのは頭蓋骨の左側1/2程度であった。前平は頭蓋骨の正中線に対してやや斜めに行われており、顔面はほとんど失われ、頬骨突起を含む左前頭骨の一部と左頬骨・左上第3後臼歯?破片1点が残存していただけである。一方、後頭骨は左2/3程度と大部分が欠っていた。頬骨突起・下顎窩部分を含む左側頭骨と左頭頂骨はほぼ完存であり、蝶形骨の一部や右頭頂骨の一部も残っている。骨の保存状況はあまり良くない。

下顎骨や四肢骨など頭蓋骨以外の部位はまったく出土しなかった。寛骨もないためこの個体の性別は確定できないが、左乳峰突起は筆者所有の現代日本人男性レプリカと同程度の大きさである。眼窩上隆起はなくなっているため、その状況は不明である。

上な縫合については、冠状縫合は内面では消失しかかっており、外面では薄いながらも確認できる。矢状縫合も内面では消失しかかっているが、外面では確認できる。ラムダ縫合は内面では癒合が始まっているが、外面でははっきり確認できる。



ヒト頭蓋骨(約2/3)

## 5 まとめ

《近代》

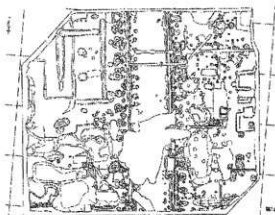
調査地点は、前述したように旧日本軍の野砲兵第3連隊の営庭と呼ばれた訓練場の一部にあたる。調査区の東半部にこの時期の遺構が集中しているのは、西半部側を戦車等の配置する敵陣とみなしていたためで、前線に「たこつぼ」をつくり、移動し身をかがめる壘壕と、その背後には指揮官のいる陣地を配置した状態になっている(註1)。これらの遺構は、調査区中央を南北に続く江戸時代の道路部分が非常に固く締まっているため、この道路跡を避けて東側に壘壕等を造ったのではないかとおもわれる。

《近世》

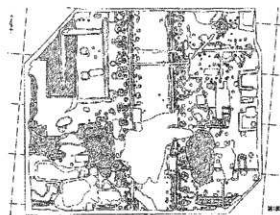
当地点の特徴として、名古屋城築城期に当時の戦国期以前の土地の表面を今回の調査区のほぼ全域に50~90cmの厚さで盛上し、整地したうえで道路や屋敷地を設定し、江戸時代初期から幕末までの遺構がこの整地面から造られていたことが判った。当調査区付近では、熱田台地をなす地盤の熱田層の上面の標高が名古屋城三の丸の東端や西端近くの発掘調査地点と比べて低く、窪地や浅い谷地形が、戦国期までの風景で知られたのであろう。

当地点のような整地土(盛土)は、東隣地の国の合同庁舎地点(1988)や西隣の県警本部地点(1991)の調査区にもみられ、特に県警本部地点の調査報告書(1993遠藤)では、「微地形をも許容することなく、名古屋城の普請に際しては、埋め立て整地して巨大な曲輪を創出しているのである。近世城郭の土木技術のすごさを思わざるをえない。今日、三の丸の官庁街は平坦な地形をみせているが、かかる地形の形成は、名古屋城普請にあったわけである。」と述べられている。

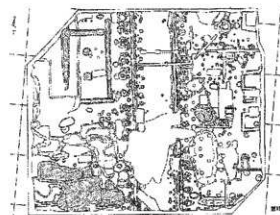
「御太鼓枘筋」の道路面は、調査区北端では、



近世Ⅰ期(17世紀~18世紀前葉)



近世Ⅱ期(18世紀中頃~18世紀末頃)



近世Ⅲ期(19世紀初頭~19世紀中頃)

(S=1/800)

図37 近世遺構変遷図[道路・側溝・塙の柱穴列は除く]

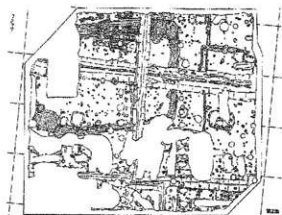
南端より30cmほど高く、道路の側溝の底面の高さも北端が南端より20cmほど高い状況であった。他の検出遺構には、廃棄土坑や井戸のほか上蔵基礎、道路に沿った塼の基礎などがあるが、その時期を大きく三つに分けて示したのが図37である。廃棄土坑は、今回18世紀代のものが多く、この頃は陶磁器をはじめ生活用品が17世紀代に比べ、大量に生産、流通、消費された時代であったことを示すであろう。特に、1A区の上坑(SK239)は、18世紀中頃に横井氏の屋敷地拝領が終わり、そのときまでの生活用品の廃棄物を大量に処分するための土坑であろうとおもわれ、ほとんど重複のない単独の巨大土坑として検出された。

また、道路東側の屋敷地では、江戸時代後期から幕末頃の上坑が少ないことは、廃棄物処理する土坑を掘ることもないまま明治政府の陸軍用地と化してしまっただけではないだろうか。《戦国期～中世》(この期間をI期からIII期に区分した遺構の分布図が図38である。)

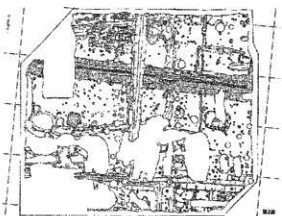
調査区北西部で20m×30m程と推定される浅い溝で方形に区画する遺構が検出され、古瀬戸後期の施釉陶器や山茶碗が出土している。今川氏が那古野の地に屋敷を構える1431年(永享3)の頃の遺構であり、居館等の性格をもつとおもわれる。今川氏親が1521～24年(大永1～4)頃に「那古野城」を築く以前(図38のI期)の遺構と考えられる。

II期の遺構は、築造時期は現在のところ明確ではないが、16世紀中頃から後半に機能していたとおもわれ、織田信秀が今川氏から那古野城を攻略した時期を含むとおもわれる。

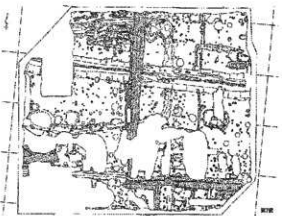
那古野城廃城の時期とされる1582年(天正10)の後も、III期の遺構は機能していたとおもわれ、京と東国を結ぶ交通上の要地でもあり、家臣団屋敷の集結を示す方形区画溝が17世紀初頭まで



中世I期(15世紀～16世紀初頭)



中世II期(16世紀中頃～16世紀後半)



中世III期(16世紀末～17世紀初頭)

(S=1/800)

図38 中世～戦国期遺構変遷図

存在していたことは、那古野城の盛衰を考えるうえで注目されよう。

#### 《古代》

古代には、竪穴住居跡の遺構が3棟分検出されたが、調査区内では古代以前の包含層の堆積は無く、中世、戦国期の城館の造営活動などに伴い失われたのかもしれない。ただし、後世の遺構に混入する須恵器などの遺物は少なく、もともと比較的小規模な集落であったと思われる。ほかに、古代の瓦片が後世の遺構から2点出土している。これらの瓦は、10世紀の創立とされる天王社の神宮寺であった安養寺が、今の三の丸の中央部あたりを占めていたとされることから、これに関連する遺物なのかもしれない。

#### 《古代以前》

古代以前は、概要にもふれたように遺構は検出されなかったが、黒曜石片やチャートの剥片などが、中近世の遺構から出土している。弥生時代では、これまで伝名古屋城出土とされる銅鐸や弥生時代後期の高杯の出土もあり、当地でも弥生時代の太盟蛤刃石斧とおもわれる刃部片が出土し、遺跡範囲(台地)中央部付近で検出されたことは、新発見であった。

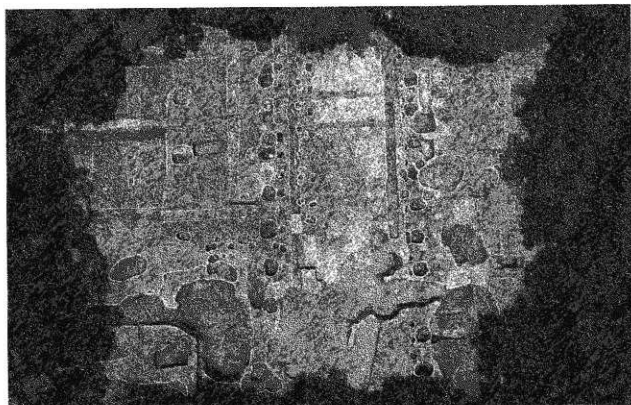
〔注〕

1 伊藤宗史氏ご教授による。

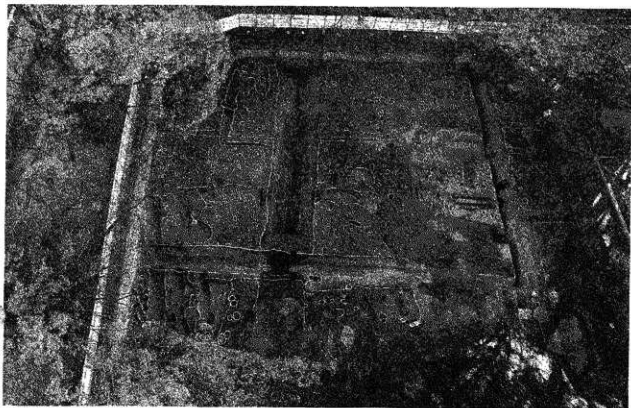
〔参考文献〕

1 1990 伝名古屋城・小澤・弘他「名古屋城三の丸遺跡(Ⅱ)」愛知県歴史文化財センター第16集

2 1993 遺傳才文「名古屋城三の丸遺跡(Ⅱ)」愛知県歴史文化財センターの調査-」愛知県歴史文化財センター第44集



第1面AB区全景(南から)



第2面A区全景(西から)



第2面B区全景(東から)

## 報告書抄録

ふりがな	なごやじょうさんのまるいせきだいじゅうにじはくつちょうさほうくくしよ		
古名	名古屋城三の丸遺跡第12次発掘調査報告書(中央新幹線「名城非常口」地点)		
編著者名	水野節之		
編集機関	名古屋市教育委員会		
所在地	〒460-8508愛知県名古屋市中区三の丸二丁目1番1号 TEL.052-972-3269 FAX.052-972-4202		
発行機関	名古屋市政府委員会		
所在地	〒460-8508愛知県名古屋市中区三の丸二丁目1番1号 TEL.052-972-3269 FAX.052-972-4202		
発行年月日	2017年3月10日		

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	面積(m <sup>2</sup> )	調査状況
		市町村	遺跡番号					
名古屋城 三の丸遺跡	愛知県名古屋市中区三の丸二丁目2	23100	7-27	35度 10分 41秒	136度 54分 16秒	2016・04・01 ～ 2017・02・29	約1900m <sup>2</sup>	鉄道建設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
名古屋城 三の丸遺跡	城郭跡 散存地	戦国期 近世	堀、塙 道路、土坑	陶磁器類	

名古屋城三の丸遺跡第12次発掘調査報告書

(中央新幹線「名城非常口」地点)

2017年3月10日

編集・発行 名古屋市教育委員会

印刷 西濃印刷株式会社





